

FACTBOOK2018

— DENTSU KYOSAI SEIKYO —

2017年度（第52期）決算のご報告など
（2017年8月1日～2018年7月31日）



電通共済生協「あゆみちゃん」



電通共済生協

電気通信産業労働者共済生活協同組合

01	より身近で頼りになる、安心の職域共済へ
02	電通共済生協の概要
03	2017年度の主な出来事
04	I 2017年度（第52期）事業概況
04	1. 経営の概況
05	2. 共済契約の概況
08	3. 財務の概況 (損益の状況・資産の状況・負債と純資産の状況・経営指標・(参考) 剰余金の処分)
13	II リスク管理・コンプライアンスの取り組み
13	1. 総合リスク管理体制
14	2. 個人情報保護について
16	3. 勧誘方針
17	4. 反社会的勢力への対応について
18	III 組織の概況および組織運営に関する事項
18	1. 運営機関と機能
19	2. 業務運営の組織(事務機構)
20	3. 役員の氏名および役職名
21	IV 主要な業務の内容
26	V 子会社の業務および財産の状況に関する事項
28	VI 支払共済金実績
32	VII 沿革
34	VIII 社会貢献活動・支援活動
36	IX 附表
36	1. 主要な業務の状況を示す指標
37	2. 直近の2事業年度における事業の指標
39	3. 直近の2事業年度における財産の状況
41	4. 経理に関する指標
42	5. 資産運用に関する指標
44	6. その他の指標
45	消費生活協同組合法施行規則にもとづく索引

端数処理について
件数、金額、構成比等の数値については、
表示単位未満を切り捨てて表示しています。

より身近で頼りになる、安心の職域共済へ

電通共済生協は、生協組合員・家族と多くの関係諸団体各位の皆様を支えられて50年の大きな節を越え、気持ちも新たに51年目の事業を力強く推進しています。

超少子高齢化社会の問題と連続して発災している自然災害の猛威への備えは待たなしの重要な課題となっています。長寿社会では必ず病気・介護との向き合い方が問われ、行政・自治体、医療、地域・家庭そして自己の備えを含めた社会全体の問題となっています。

そして、地震、噴火、台風、豪雨、雪害、雷などの自然災害は大型化・複合化の様相となり、日本列島各地で連続的に発災し猛威を振るっていますが、大きな被害を受けた被災者の生活再建は、行政や各種支援があっても極めて厳しい状況となっています。

各自治体や地域でも防災、減災をはじめ安全ネットワークづくりを行なっていますが、電通共済生協も全労済、日本再共済連、単産共済とも連携し、迅速な共済金の支払いおよび自然災害に対する研修会、セミナーを開催し課題の共有をはかるとともに、基本組織が実施している災害復興ボランティア活動にも支援を行なっています。

さらに、増々ウェイトが高まる自助への備えに、少しでも役立てて頂くための職域共済事業として生命、医療、傷害および火災・自然災害、マイカー共済などの各種共済制度の浸透に向け基本組織や退職者組織および福祉事業体、事業パートナーと連携し「安心・安全へワンストップで低廉な掛金」での提供をインターネットも活用し、訴求力の強化に取り組んでいます。

生協組合員と家族から信頼される事業の推進に向け、コンプライアンスの徹底による健全な事業運営はもとより、社会の変化や組合員ニーズへの対応とITを活用した効果、効率、利便性向上、および複合災害、メガ災害への備えもしっかり取り組んで行きます。

電通共済生協は、「すべては生協組合員・家族の安心・安全のために」を基本理念に、助け合い、支え合い、相互扶助の「My共済」を推進していますが、より「ファミリー共済」へと安心の絆を広く太くした事業を展開して行きたいと思えます。

今後とも、電通共済生協に対しますご理解、アドバイス、ご支援・ご協力を宜しくお願い致します。

2018年12月

代表理事 理事長

加藤 友康



電通共済生協の概要

名称

電気通信産業労働者共済生活協同組合（略称：電通共済生協）

設立年月日

1967年4月7日（設立記念日）

法人の根拠法

消費生活協同組合法（生協法）にもとづく法人（厚生労働大臣認可）

所在地

東京都千代田区神田淡路町二丁目101番地ワテラスタワー

主な事業内容

- ・ 共済契約の引き受け
- ・ 全国労働者共済生活協同組合連合会（全労済）の共済事業の一部の受託
- ・ 組合員のための組合事業に関する知識の向上をはかる事業

職域

日本電信電話株式会社、情報産業労働組合連合会、NTT労働組合
通建連合、KDDI労働組合、その他定款に定める会社・労働組合

職員数

54名（出向職員を含む。）契約職員34名 ※2018年7月末

子会社

ユアサポート株式会社



2017年度の主な出来事

2017年	8月	■52期事業年度スタート ■電通共済生協コールセンタ（元受）を外部委託へ
	9月	■「2017年秋のキャンペーン」の実施 生命共済くささえ愛>、火災共済くすまいる>、 自然災害共済くおまかせ>、交通災害共済くしぐなる>、 マイカー共済、医療・傷害くMyセーフティ>を取り組む
	10月	■第76回通常総代会 利用分量割り戻しの実施— 火災共済2.1億円・生命共済1.7億円 ■電通共済生協グループ「facebook」開設
	11月	■情報労連主催「東北被災地視察学習会」への支援 ■ストレステストの実施
	12月	■2017年12月1日から、生命共済くささえ愛>制度改定、 医療・傷害くMyセーフティ>掛金改定 ■医療・傷害くMyセーフティ>のオプションに「親介護保障特約」を追加
2018年	1月	■共済担当役職員研修会
	4月	■新入組合員の取り組み ■2018年8月より、マイカー共済の「団体割引7.5%再開」 ■2018年12月1日より、くMyセーフティ>医療保障の引受年齢（0歳～84歳）拡大
	5月	■メンタルヘルスマネジメント資格取得（管理者）に向けた取り組み ■「全国環境一斉行動」への支援
	6月	■「退職組合員 加入促進」の実施 生命共済くささえ愛>、火災共済くすまいる>、自然災害共済くおまかせ>、 交通災害共済くしぐなる>、マイカー共済、医療・傷害くMyセーフティ>を取り組む
	7月	■「マイカー共済コールセンタ」と「事務処理センタ」の統合、全面委託化 ■「通建連合 東日本大震災に伴う復興支援活動」への支援



I 2017年度(第52期)事業概況

1 経営の概況

◎2017年度(2017年8月～2018年7月)の 主要な事業の状況(7月末現在)

組合員数		353,869 人
うち、退職組合員数		140,178 人
組合員出資金		3,423 百万円
契約件数	元受共済※	769,826 件
受入共済掛金	元受共済	11,519 百万円
支払共済金	元受共済	5,345 百万円
事業経費		4,049 百万円
経常剰余金		2,090 百万円
総資産		40,458 百万円

※…元受共済は、総合(慶弔)共済、火災共済、自然災害共済、生命共済、
交通災害共済の5共済を指しています。

「契約件数」の「元受共済」欄は、共済ごとの数値を合計しています。

・総合(慶弔)共済・火災共済・自然災害共済→契約数

・生命共済・交通災害共済→組合員本人の契約数

2017年度(第52期)の事業運営は、ガバナンス・コンプライアンス体制の強化、基本組織との連携強化、事業推進体制の強化などに取り組んできました。

また、生命共済の大きな制度見直し、ならびに「Myセーフティ」の掛金改定や親介護保障特約の追加等の制度の充実を図り、生協組合員の「基盤保障」として「生命共済+Myセーフティ」のセット加入を軸に加入拡大に取り組んできました。

52期末の生協組合員数は、35万3,869人と微増となっておりますが、現職組合員は毎年減少し、退職組合員は毎年増加傾向にあります。退職組合員の比率は、39%を超え、次年度には40%を超えることが想定され、予想を上回るスピードで高齢化が進展しています。

生協組合員の共済等の利用状況については、自然災害共済「大型タイプ」を除く全ての元受共済が前期割れとなっており、受入共済掛金目標116億円に対し、115億1,970万円となり、目標を達成することができず、厳しい結果となりました。

一方で、共済金の支払いについては、53億4,532万円となり前年よりの5億3,748万円の減少となりました。

2 共済契約の概況

2017年度末における元受5共済を合計した契約件数は769,826件、受入共済掛金は115億1,970万円、支払件数は52,876件、支払共済金は53億4,532万円となりました。

① 全体の状況

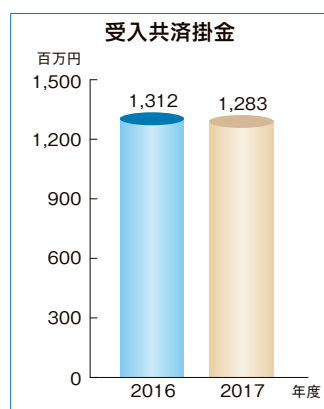
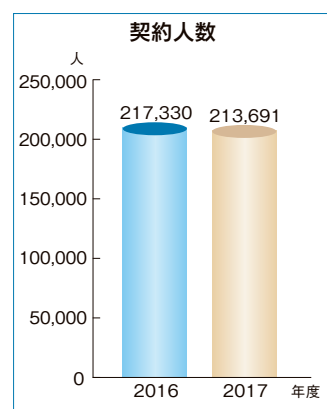
契約件数		受入共済掛金	
213,691件	総合（慶弔）共済	1,283百万円	
157,588件	火災共済	2,136百万円	
95,218件	自然災害共済	1,630百万円	
118,423件	生命共済	5,407百万円	}}
184,906件	交通災害共済	1,062百万円	

生命共済と交通災害共済の契約件数は組合員本人の契約数

支払件数		支払共済金	
45,201件	総合（慶弔）共済	910百万円	
3,550件	火災共済	594百万円	
1,047件	自然災害共済	213百万円	
551件	生命共済	3,070百万円	}}
2,527件	交通災害共済	556百万円	

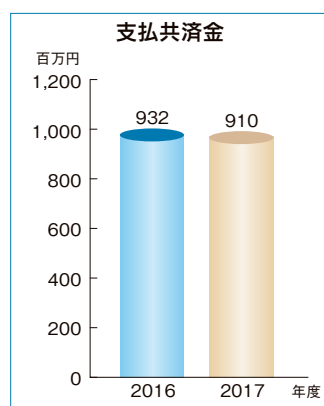
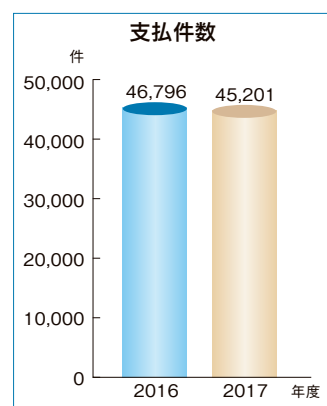
② 共済別の状況

● 総合（慶弔）共済

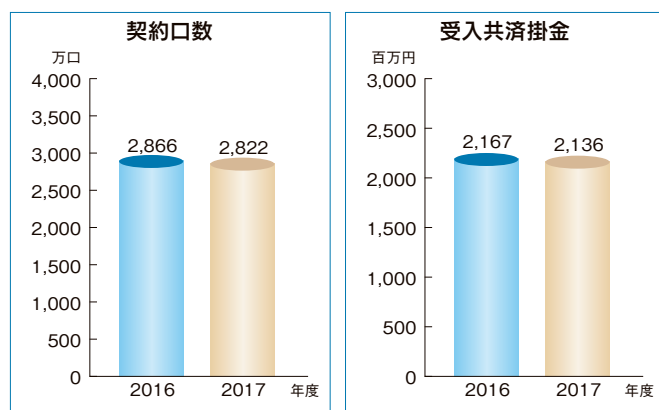


契約人数は、前年度比で3,639人減の213,691人となり、受入共済掛金も2,904万円減の12億8,361万円となりました。

支払共済金については、前年度比2,236万円減の9億1,043万円となりました。

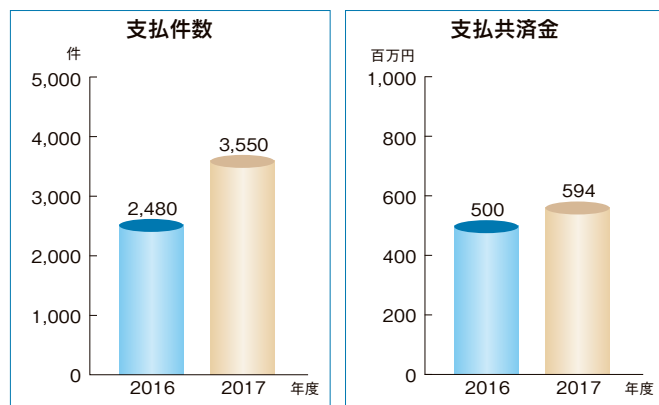


●火災共済〈すまいる〉

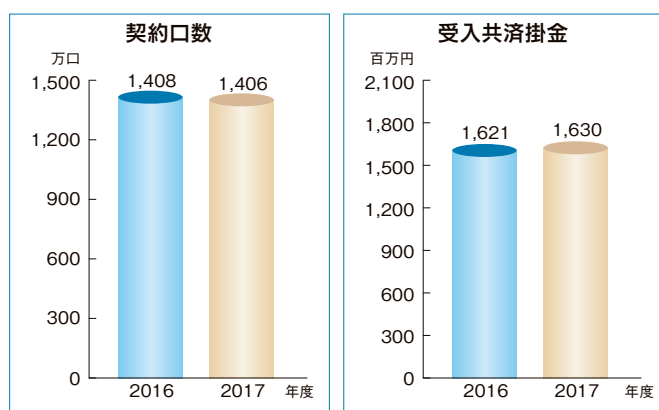


契約口数は、前年度比43万口減の2,822万口、受入共済掛金は3,076万円減の21億3,634万円となりました。

支払共済金は、前年度比9,381万円増の5億9,459万円となりました。

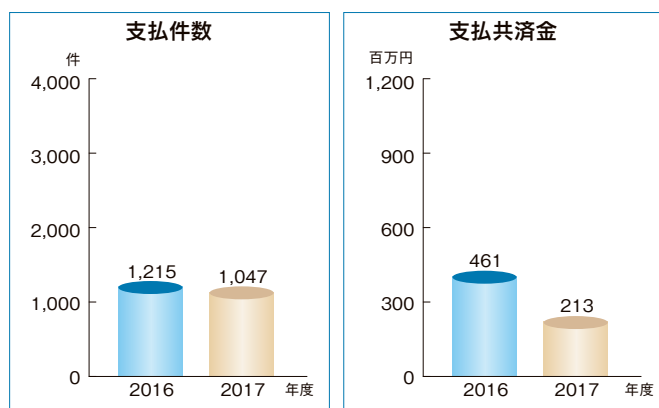


●自然災害共済〈おまかせ〉

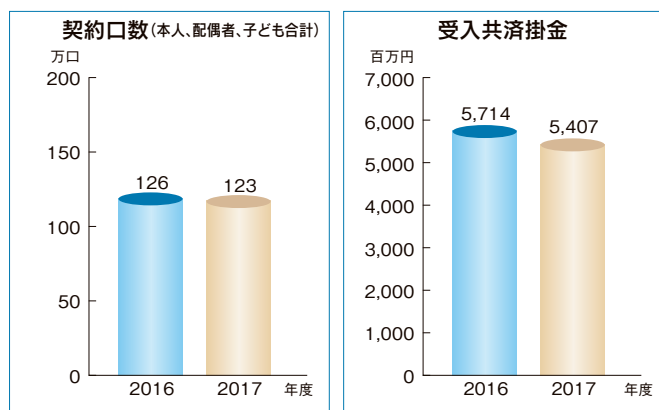


契約口数は、前年度比2万口減の1,406万口となりました。受入共済掛金は、前年度比830万円増の16億3,002万円となりました。

支払共済金は前年度比2億4,821万円減の2億1,359万円となりました。



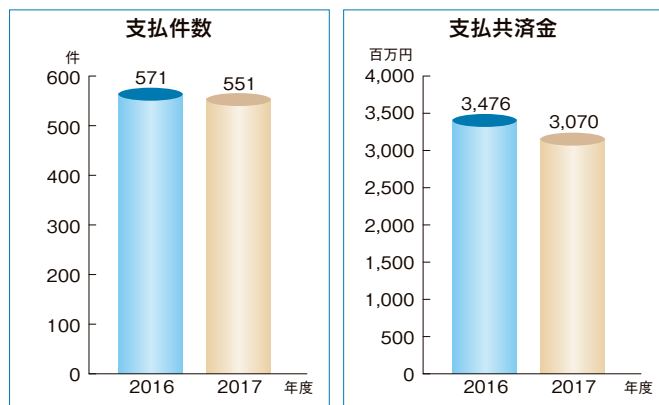
●生命共済〈ささえ愛〉



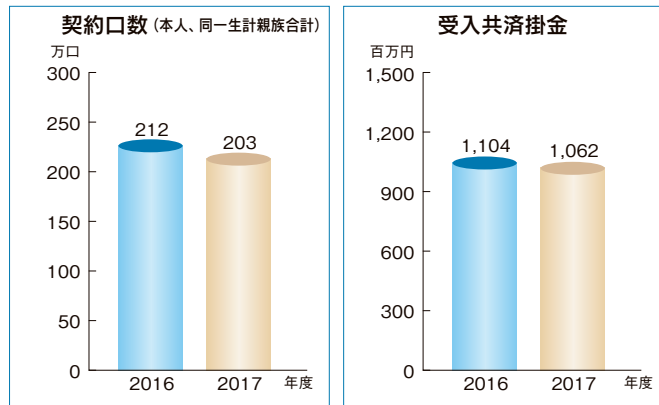
契約口数は、前年度比2万口減の123万口となりました。

受入共済掛金は、前年度比3億676万円減の54億763万円となりました。

支払共済金は前年度比4億610万円減の30億7,000万円となりました。



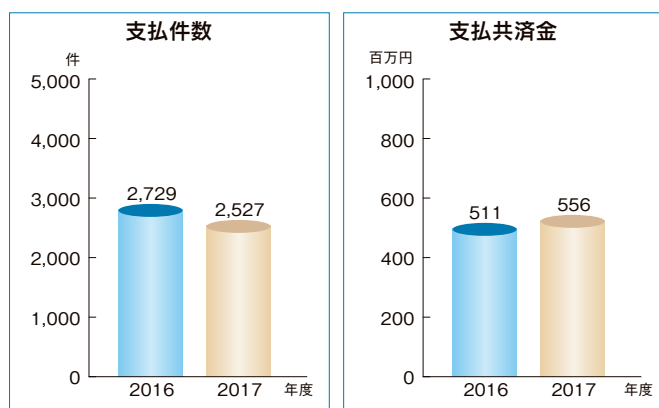
●交通災害共済〈しぐなる〉



契約口数は、前年度比8万口減の203万口となりました。

受入共済掛金は、前年度比4,198万円減の10億6,209万円となりました。

支払共済金は、前年度比4,537万円増の5億5,669万円となりました。

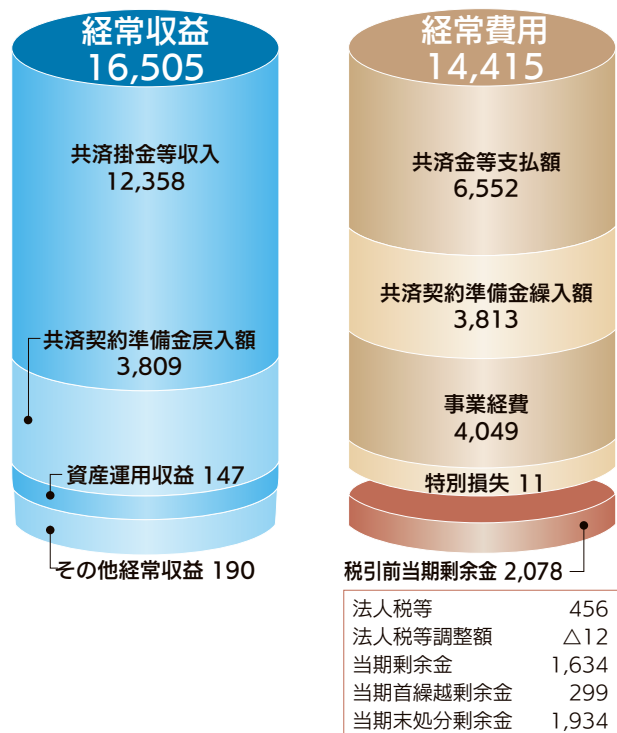


3 財務の概況

○損益の状況

●2017年度の収益と費用

(単位：百万円)



経常収益は、165億568万円 で、前年度比8億4,221万円の減少となりました。主な特徴点は、①共済掛金等収入が5億9,854万円減少したこと②共済契約準備金戻入額が2億7,654万円減少したことです。

経常費用は、144億1,566万円 で、前年度比10億6,638万円減少しました。主な特徴点は、①共済金等支払額が5億6,812万円減少したこと②共済契約準備金繰入額が4億4,310万円減少したことです。

その結果、経常剰余金は20億9,001万円 で、前年度比2億2,417万円の増加となりました。

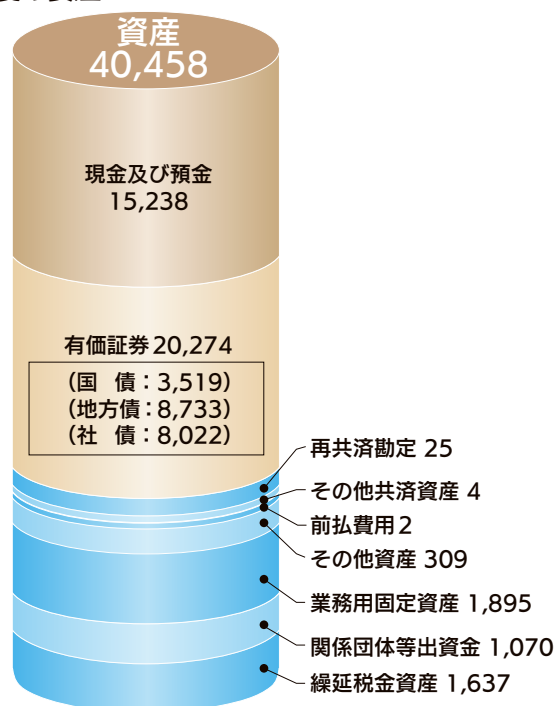
●直近5事業年度における推移

(単位：百万円)

	2013年度	2014年度	2015年度	2016年度	2017年度
経常収益	17,652	17,270	18,297	17,347	16,505
共済掛金等収入	13,417	13,220	13,610	12,956	12,358
その他収益	4,235	4,050	4,686	4,391	4,147
経常費用	15,315	15,923	16,261	15,482	14,415
共済金等支払額	7,089	7,206	7,706	7,121	6,552
共済契約準備金繰入額	4,209	4,696	4,407	4,256	3,813
事業経費	4,016	4,020	4,148	4,104	4,049
経常剰余金	2,337	1,347	2,035	1,865	2,090

○資産の状況

●2017年度の資産 (単位：百万円)



資産総額は、404億5,831万円で前年度比12億6,506万円の増加となりました。

このうち、運用資産（預貯金、有価証券）は、前年度比13億4,378万円増加し、355億1,273万円（資産総額の87.8%）となり、うち42.9%の152億3,792万円が預貯金となっています。

共済事業の運営において、大規模災害発生等を考慮し、安全性と流動性の確保を重視した資産配分を行っています。

●直近5事業年度における推移

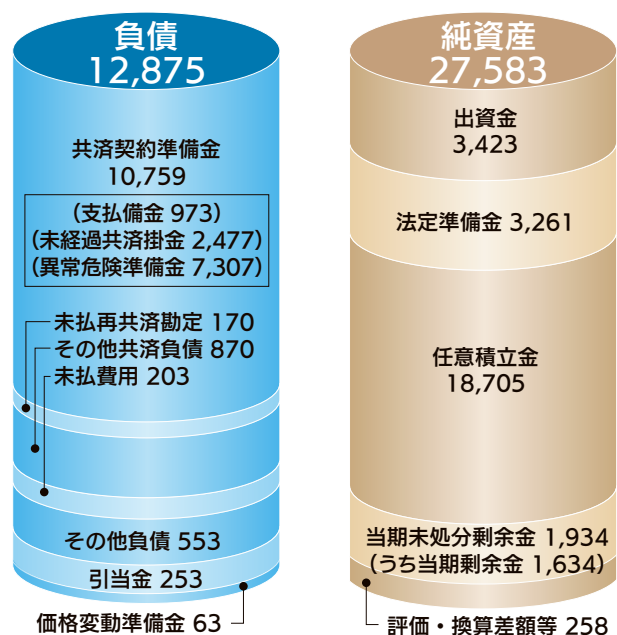
(単位：百万円)

		2013年度	2014年度	2015年度	2016年度	2017年度
資産	現金及び預金	14,406	13,538	15,627	16,478	15,238
	有価証券	17,148	19,133	18,142	17,690	20,274
	(国債)	5,090	5,085	4,748	4,254	3,519
	(地方債)	7,521	9,036	9,292	8,379	8,733
	(社債)	4,536	5,011	4,102	5,056	8,022
	その他	3,856	4,470	4,740	5,023	4,945
	資産計	35,411	37,142	38,510	39,193	40,458

○負債と純資産の状況

◎2017年度の負債と純資産

(単位：百万円)



負債の総額は、128億7,501万円で、前年度比5,343万円の増加となりました。負債のうち、83.6%を占める共済契約準備金は、107億5,903万円で、前年度比371万円の増加となりました。そのうち、支払備金が9億7,370万円で前年度比3,612万円減少、未経過共済掛金が24億7,785万円で前年度比3億2,188万円の減少、異常危険準備金が73億747万円で前年度比3億6,172万円の増加となりました。

純資産の総額は、275億8,330万円で、前年度比12億1,162万円の増加となりました。そのうち、任意積立金は6億9,668万円、組合員からの出資金は4,114万円増加となりました。

◎直近5事業年度における推移

(単位：百万円)

		2013年度	2014年度	2015年度	2016年度	2017年度
負債	共済契約準備金	9,819	10,666	10,585	10,755	10,759
	その他	2,061	2,106	2,080	2,066	2,116
	負債合計	11,880	12,772	12,665	12,821	12,875
純資産	出資金	2,415	2,786	3,053	3,382	3,423
	法定準備金	2,393	2,415	2,786	3,053	3,261
	任意積立金	16,253	17,319	17,582	18,008	18,705
	当期末処分剰余金	2,092	1,483	1,903	1,587	1,934
	評価・換算差額等	375	366	519	339	258
	純資産合計	23,530	24,370	25,844	26,371	27,583
負債・純資産の合計		35,411	37,142	38,510	39,193	40,458

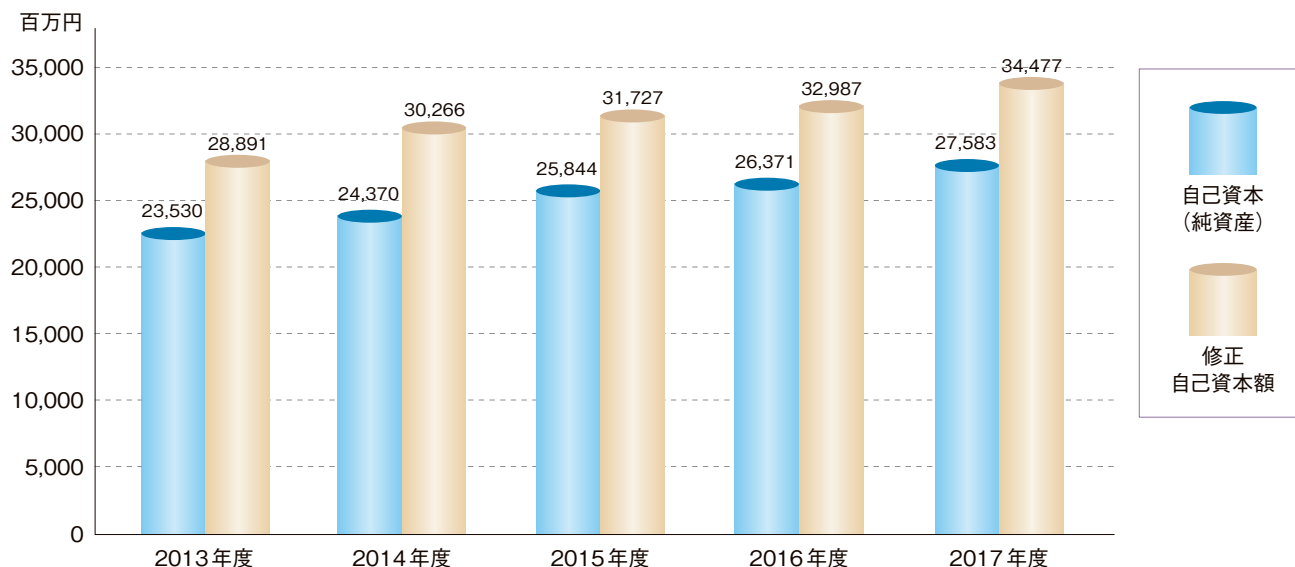
○経営指標

[自己資本の状況]

自己資本(純資産)は、275億8,330万円で、この額に異常危険準備金73億747万円および価格変動準備金6,354万円を加算し、利用分量割戻予定額4億7,650万円を差し引いた修正自己資本額は344億7,782万円となりました。

修正自己資本比率(修正自己資本額が総資産に占める割合)は、85.2%となりました。

●自己資本の推移



●修正自己資本額の推移(異常危険準備金等を含む)

(単位: 百万円)

	2013年度	2014年度	2015年度	2016年度	2017年度
①自己資本					
出資金	2,415	2,786	3,053	3,382	3,423
法定準備金	2,393	2,415	2,786	3,053	3,261
任意積立金	16,253	17,319	17,582	18,008	18,705
当期末処分剰余金	2,092	1,483	1,903	1,587	1,934
評価・換算差額等	375	366	519	339	258
小計	23,530	24,370	25,844	26,371	27,583
②異常危険準備金	5,969	6,430	6,498	6,945	7,307
③価格変動準備金	30	38	45	53	63
④利用分量割戻予定額	639	572	661	383	476
修正自己資本額(①+②+③-④)	28,891	30,266	31,727	32,987	34,477
修正自己資本比率	81.6%	81.5%	82.4%	84.2%	85.2%

修正自己資本比率=(修正自己資本額)÷(負債と純資産の合計額)×100

[支払余力比率]

支払余力比率は1,505%(支払余力比率新基準)となり、前年度と比較し107ポイント増加しています。

摘要	2013年度	2014年度	2015年度	2016年度	2017年度
支払余力総額(A)(百万円)	34,465 (28,275)	29,497	31,250	31,804	32,573
リスクの合計額(B)(百万円)	3,107 (4,750)	4,777	4,617	4,550	4,328
支払余力比率(%) (A)/{(B)×(1/2)}×100	2,219 (1,191)	1,235	1,354	1,398	1,505

(注1) 消費生活協同組合法施行規則および消費生活協同組合法施行規則にもとづいて算出しています。

(注2) 生命共済事業と損害共済事業の両方を実施しているため、生命保険会社または損害保険会社のソルベンシーマージン比率と単純に比較できません。

(注3) 2014年度より支払余力比率の新基準を適用しています。

(注4) 2013年()内に記載している数値は、新算出基準を2013年度に適用したと仮定して算出した数値です。

○(参考) 剰余金の処分

当期末処分剰余金 19 億 3,448 万円のうち、1 億 6,234 万円を生協法で定める法定準備金として積み立て、4 億 7,650 万円を火災共済および生命共済の利用分量割戻しとして行ない、任意積立金として 10 億 1,300 万円の積み立てを行ないました。

●剰余金処分の内容

(単位：千円)

適 用	金 額
I. 当期末処分剰余金	1,934,486
II. 剰余金処分額	1,651,844
1. 法定準備金	162,343
2. 利用分量割戻金	476,500
火災共済	210,065
生命共済	266,435
3. 任意積立金	1,013,000
税効果調整積立金	13,000
職域退職餞別積立金	200,000
見舞金事業積立金	700,000
資産運用リスク積立金	100,000
III. 次期繰越剰余金	282,641

・次期繰越剰余金のうち、8,200 万円は、生協法第 51 条の 4 に定める教育事業繰越金です。

●剰余金処分後の法定準備金額および任意積立金額

(単位：千円)

区 分	金 額
法定準備金	3,423,871
任意積立金	19,718,000
共済リスク・経営諸リスク対応積立金	9,600,000
職域退職餞別積立金	3,780,000
システム開発積立金	3,000,000
税効果調整積立金	1,738,000
資産運用リスク積立金	800,000
災害対策積立金	100,000
見舞金事業積立金	700,000

- ・「共済リスク・経営諸リスク対応積立金」は、通常の共済引受リスクを超える巨大災害発生時の共済リスクおよび経営上のリスクに備えるための積立金です。
- ・「職域退職餞別積立金」は、総合（慶弔）共済の職域退職餞別の将来給付に備える積立金です。
- ・「システム開発積立金」は、将来のシステム更改・開発に備えるための積立金です。
- ・「税効果調整積立金」は、税効果会計により計上した繰延税金資産に対する積立金です。
- ・「資産運用リスク積立金」は、保有運用資産の運用リスクに備えるための積立金です。
- ・「災害対策積立金」は、災害時に保有する固定資産が被る損害に備えるための積立金です。
- ・「見舞金事業積立金」は、見舞金事業に規定する「供物代」「大規模災害見舞金」の給付に備える積立金です。

Ⅱ リスク管理・コンプライアンスの取り組み

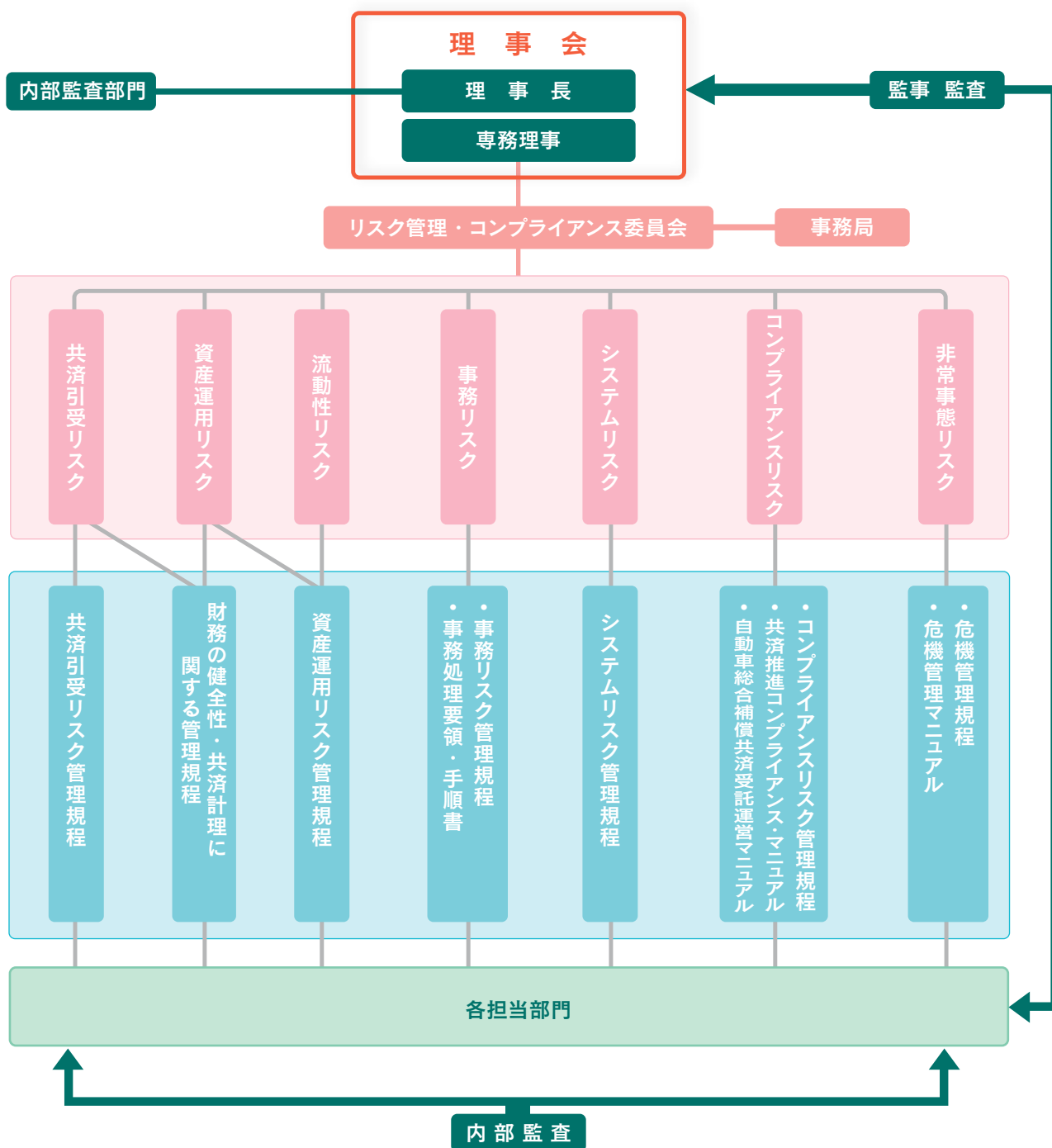
1 総合リスク管理体制

共済事業を推進するにあたっては、様々なリスクの所在を把握し、それらの特性を分析するとともに、種々のリスクに応じた適切な管理を行なうことが重要です。

電通共済生協では2009年8月に「総合リスク管理・コンプライアンス規則」を策定しました。このなかで、保有するリスクを「共済引受リスク」「資産運用リスク」「流動性リスク」「事務リスク」「システムリスク」「コンプライアンスリスク」「非常事態リスク」に区分し、それぞれの具体的な内容や範囲を規定して体系的な管理を実施しています。

体制面では、総合的な管理として、「リスク管理・コンプライアンス委員会」を設置し、各種リスクの管理方法（内部規則）を下図のとおり定めています。

また、内部牽制機能を高めるために、内部検査（監査）を実施し、管理状況の検証を行なっています。



2 個人情報保護について

電気通信産業労働者共済生活協同組合（以下「電通共済生協」という。）では、組合員・契約者の皆様からご信頼をいただけるよう、個人情報の取扱いについて、個人情報の保護に関する法律（以下、「個人情報保護法」という。）および行政手続における特定の個人を識別するための番号の利用等に関する法律（以下、「番号法」という。）ならびにその他の関係法令を遵守し適切に行ないます。

個人情報の適切な取扱いのため、年1回以上の監査と見直しを行ない、継続的改善に努めます。定期的な監査以外にも、不備を見つけた場合には迅速に対応します。

個人情報の取扱いについては、原則下記1～6項のように行ないますが、法令に基づく場合等個人情報の取扱いにおいて例外事項を適用しなければならない場合には、個人情報保護総轄責任者の責任の下で行ないます。

1 個人情報の利用目的・取得等

電通共済生協は、より良い共済商品やサービスを提供させていただくため、組合員・契約者の皆様に関する必要最小限の情報を取得し、利用させていただきます。

なお、個人情報保護法および番号法において例外的に利用が認められている場合は、以下の利用目的を超えて利用させていただくことがあります。

(1) 個人情報について

組合員・契約者の皆様の個人情報は、ご本人かどうかの確認、共済契約の締結・維持管理、共済金の支払い等を含む共済契約の判断に関する業務や各種共済商品の加入促進活動や契約状況の案内、共済商品・サービスの紹介等の目的のために利用させていただきます。

また、利用目的の達成に必要な範囲を超えて個人情報を取り扱う場合は、あらかじめご本人の同意をいただきます。

(2) 特定個人情報について

組合員・契約者の皆様の特定個人情報は、共済契約にかかる支払調書の作成事務などの目的のために利用させていただきます。

2 取得させていただく情報の種類

(1) 個人情報について

組合員・契約者の皆様の住所、氏名、生年月日、性別、電話番号、その他共済契約の締結・共済金の支払いを行なうにあたって必要となる情報やホームページから「お問い合わせ」等をいただいた方のメールアドレス等の情報を取得させていただきます。

(2) 特定個人情報について

組合員・契約者の皆様の個人番号（マイナンバー）および本人確認のための必要最低限の情報（住所、氏名、生年月日、性別等）を取得させていただきます。

3 情報の取得方法

(1) 個人情報について

主に申込書や契約書等により、組合員・契約者の皆様の情報を取得させていただきます。

また、所属されている労働組合等を経由して、共済に係わる組合員・契約者の皆様の情報を取得させていただきます。

(2) 特定個人情報について

共済金請求書などの請求にかかる帳票等により、情報を取得させていただきます。

4 情報の管理

電通共済生協では、組合員・契約者の皆様から取得する情報について、「個人情報保護規程」および「特定個人情報保護規程」にもとづき以下のとおり安全管理に努めます。

(1) 保管について

情報の保管については、管理責任者等の設置や情報セキュリティ対策等をはじめ、必要かつ適切な措置を講じるとともに、組合員・契約者の皆様の情報の漏えい、紛失、き損または情報への不正アクセスなどの防止を図るなど、情報の安全管理に努めます。

また、個人情報および特定個人情報については、利用目的の達成に必要な範囲において正確かつ最新なものにするよう努めます。

なお、他の事業者等に業務委託する場合等においては、委託先に対して、適切な情報管理を求めるとともに、目的外の利用を行なわせない等の必要かつ適切な委託先の監督に努めます。

(2) 情報の廃棄等について

情報の廃棄については、法令で定める保存期間を経過する等、保管の必要がなくなった場合には、速やかに復元不可能な手段で廃棄または削除します。

5 情報の利用・提供

(1) 個人情報について

電通共済生協では、組合員・契約者の皆様の個人情報を業務上必要がある場合にのみ利用し、個人情報を外部に提供することはありません。

(2) 特定個人情報について

組合員・契約者の皆様の特定個人情報は、取得目的および番号法の定める範囲内でのみ利用し、番号法に定める場合を除いて、利用目的を超えて利用・提供することはありません。

6 共同利用

電通共済生協およびそのグループ会社等では、共済契約の締結、維持・管理、共済金支払の適正化等を目的に、それぞれ行政庁および共済事業団体等との間で保有個人データを共同利用させていただきます。

7 開示・訂正・利用停止

電通共済生協は、個人情報の取り扱いに関するお問い合わせ、相談等を下記窓口にて受け付けております。

【お問い合わせ窓口】

電通共済生協 総務経理部

電話：03-3810-6788

（受付時間：9時～17時30分 年末年始および土日祝祭日を除きます）

2005年 3月1日 制定

2007年 1月1日 改定

2014年 8月1日 改定

2018年12月1日 改定

3 勧誘方針

共済事業の推進にあたり、「金融商品の販売等に関する法律」にもとづいて、「勧誘方針」を定めています。

電通共済生協は、「消費生活協同組合法」にもとづき、営利を目的としない保障の生協として共済事業を営み、組合員の皆様の安心とゆとりある暮らしを目指します。

1. 当組合は、「消費生活協同組合法」「金融商品の販売等に関する法律」「消費者契約法」およびその他各種法令などを遵守し、適正な共済の推進に努めます。
2. 当組合は、組合員の皆様に共済内容を正しくご理解いただくために、説明内容や説明方法を工夫し、組合員のニーズと実情にそった適切な共済が選択できるように努めます。
3. 当組合は、正当な理由なく深夜や早朝などの不適当な時間帯に共済の推進は行なわないように努めます。
4. 当組合は、共済事由が発生した場合には、迅速かつ的確な共済金の支払に努めます。
5. 当組合は、プライバシー保護の重要性を認識し、組合員の情報については適正かつ厳正な管理に努めます。
6. 当組合は、組合員皆様方のご意見等の収集に努め、今後の共済開発や推進に反映していくように努めます。
7. 当組合は、総合慶弔共済、生命共済、火災共済、自然災害共済、交通災害共済、自動車共済（マイカー共済）、車両共済、自動車損害賠償責任共済を取り扱っています。

2001年4月1日

電気通信産業労働者共済生活協同組合

4 反社会的勢力への対応について

電気通信産業労働者共済生活協同組合は、社会の秩序や安全に脅威を与える反社会的勢力及び団体に
対し、断固とした姿勢で臨むため、「反社会的勢力による被害を防止するための基本方針」を定めます。

1 組織として対応します。

反社会的勢力から不当要求がなされた場合には、担当者や担当部署だけに任せるのではなく、組織全体
として対応するとともに役職員の安全を確保します。

2 外部専門機関と連携します。

反社会的勢力による不当要求に備えて、平素から警察・暴力追放運動推進センター・弁護士等の外部
の専門機関と意思疎通を行ない、緊密な連携関係を構築します。

3 取引を含めた一切の関係を遮断します。

反社会的勢力とは一切の関係をもちません。また、反社会的勢力であると知らずに関係を有してしまっ
た場合は、相手方が反社会的勢力であると判明した時点で速やかに関係を解消します。

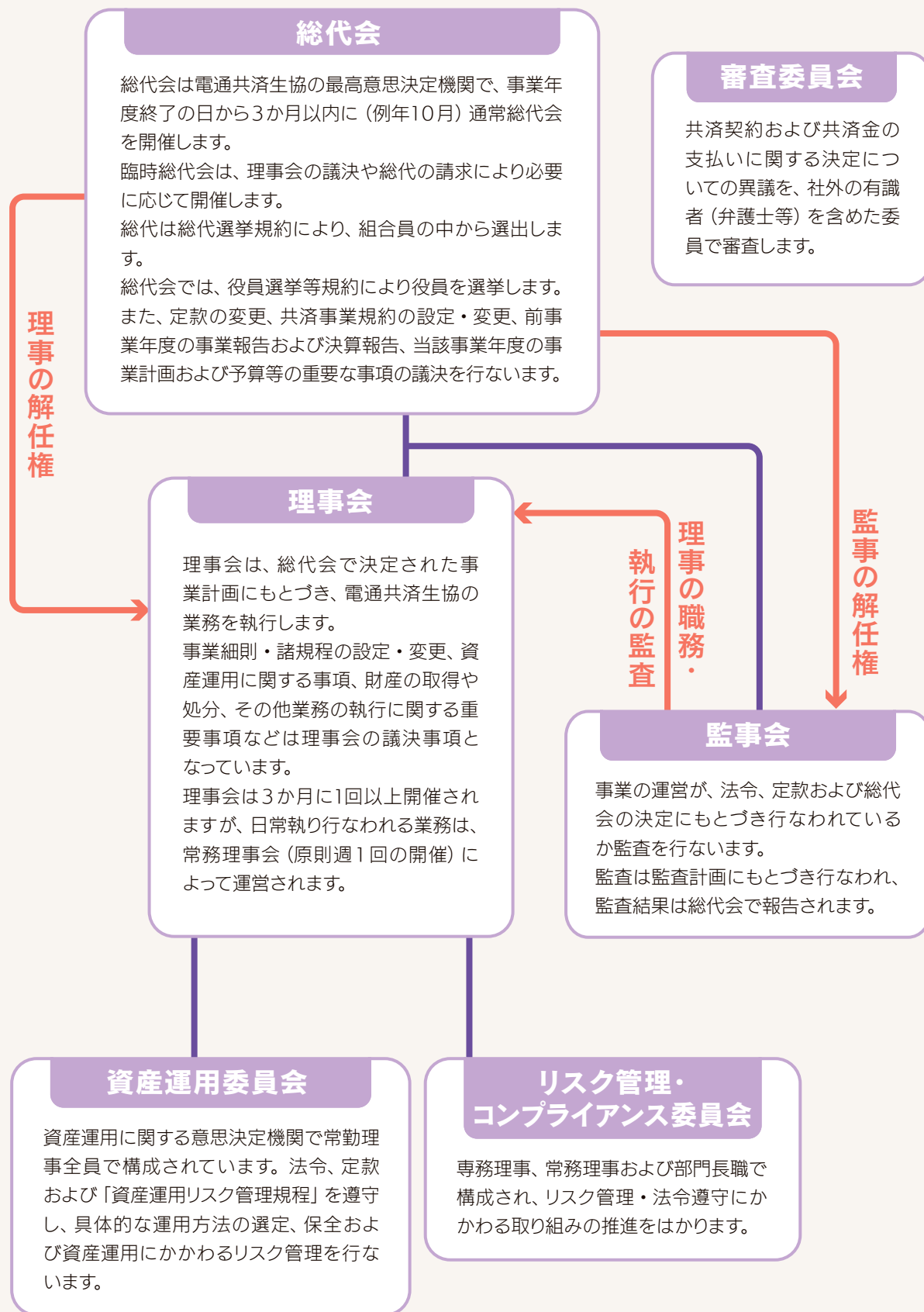
4 有事における民事と刑事の法的対応を行ないます。

反社会的勢力の不当要求に対しては、民事と刑事の両面から法的対応を行なうこととし、あらゆる民事
上の法的手段を講じるとともに、積極的に被害届けを出すなど、刑事事件化も躊躇しません。

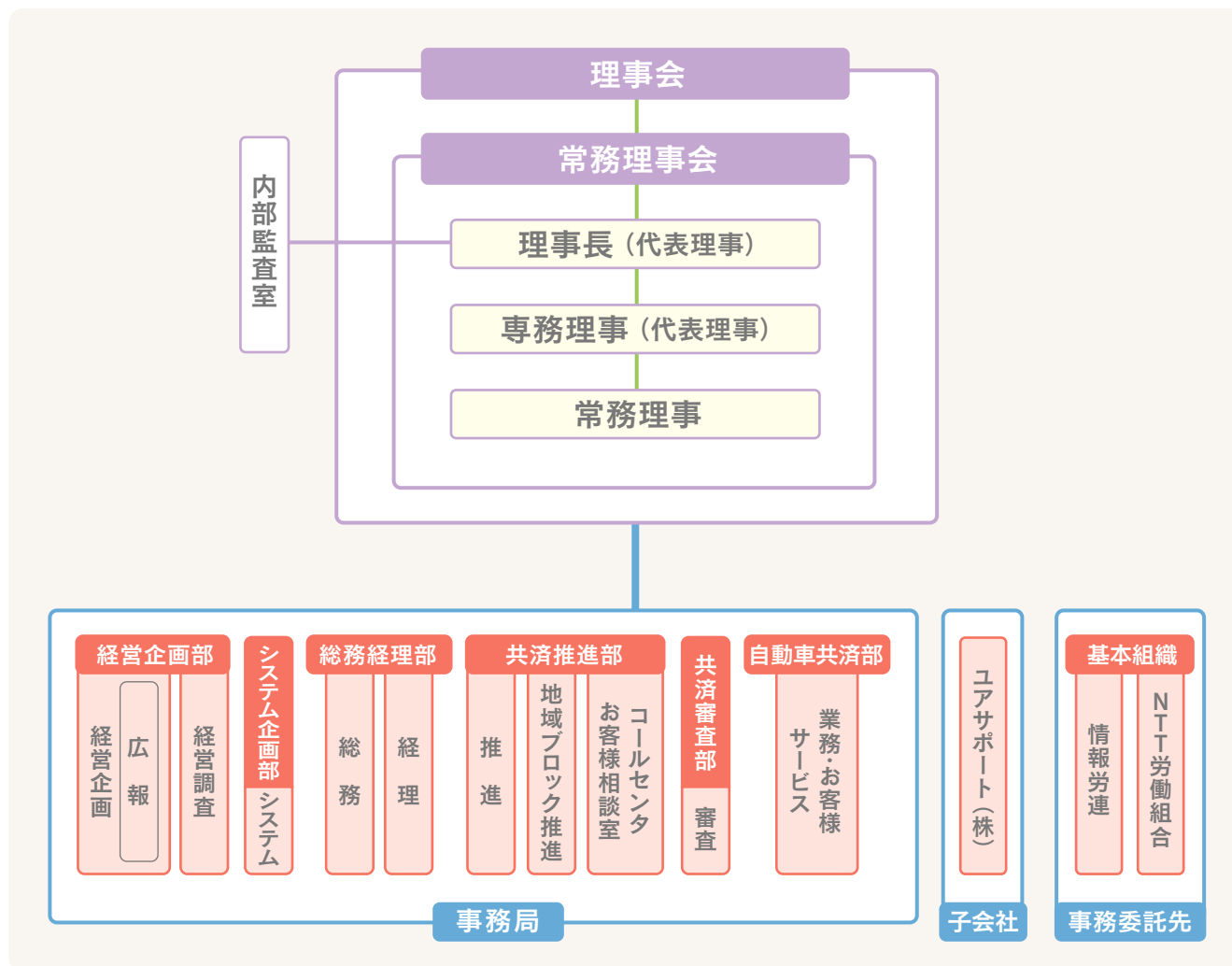
5 裏取引や資金提供は絶対に行ないません。

反社会的勢力による不当要求が、事業活動上の不祥事や役職員の不祥事を理由とするものであっても、
事案を隠蔽するために裏取引や資金提供を行なうなどの行為は絶対に行ないません。

1 運営機関と機能



2 業務運営の組織（事務機構）



組織の概況および組織運営に関する事項

III

● 経営企画部

経営企画…年間事業計画の策定 機関会議の開催 認可申請 定款・事業規約等の整備 他

広報…広告宣伝物・掲載記事の作成 各種取材 他

経営調査…各共済の加入状況・共済金支払状況の把握および分析 統計情報作成 共済数理 他

● システム企画部

システム…電通共済生協システムの開発・機能追加・更改 現用システムの維持管理 社内ネットワークの運用管理 他

● 総務経理部

総務…機関運営の概括管理 組織・人事諸制度の管理 人材育成 個人情報保護 危機管理 他

経理…財務会計処理 予算・実績の管理 決算業務 資産運用にかかわる業務 他

● 共済推進部

推進…共済募集活動 契約の引受・維持管理 掛金にかかわる業務 募集資料・申込書類等の作成 他

地域ブロック推進…共済募集活動 事務委託先の支援

お客様相談室・コールセンタ…組合員からの問い合わせ受付 契約照会 他（業務委託）

● 共済審査部

審査…共済金請求にかかわる審査業務 支払共済金の確定 請求書類等の作成 他

● 自動車共済部

業務・お客様サービス…マイカー共済・車両損害補償にかかわる契約管理業務 組合員からの問い合わせ受付 他

● 内部監査室

内部監査…内部監査の実施、内部管理体制等の適切性・有効性の検証 他

3 役員の氏名および役職名

2018年10月22日現在

役 職	氏 名	所 属
代 表 理 事 理 事 長	加藤 友康 かとう ともやす	
代表理事 専務理事	高田 康夫 たかだ やすお	
常 務 理 事	藤井 淳 ふじい あつし	
常 務 理 事	春木 幸裕 はるき ゆきひろ	
常 務 理 事	玉置 万裕 たまき かずひろ	
理 事	喜井 広明 きい ひろあき	NTT労組中央本部
理 事	安藤 京一 あんどう きょういち	NTT労組中央本部
理 事	平田 雅則 ひらた まさのり	NTT労組中央本部
理 事	廣瀬 智美 ひろせ ともみ	NTT労組中央本部
理 事	日野 達弥 ひの たつや	NTT労組中央本部
理 事	佐藤 祐一 さとう ゆういち	NTT労組中央本部
理 事	鈴木 克彦 すずき かつひこ	NTT労組東日本本部
理 事	山縣 芳彦 やまがた よしひこ	NTT労組西日本本部
理 事	余田 彰 よだ あきら	NTT労組コミュニケーションズ本部
理 事	内田 靖治 うちだ やすじ	NTT労組データ本部
理 事	高橋 聡 たかはし さとし	NTT労組ドコモ本部
理 事	相馬 真琴 そうま まこと	NTT労組持株グループ本部
理 事	柴田 謙司 しば た けんじ	情報労連中央本部
理 事	反田 丈裕 そり た たけひろ	情報通信設備建設労働組合連合会
理 事	後藤 一宏 ごとう かずひろ	KDDI労組中央本部
理 事	石原 喜久 いしはら よきひさ	NTT労組退職者の会中央協議会
理 事	川辺 優 かわべ まさる	NTT労組退職者の会中央協議会
代 表 監 事	宇田 珠美 うだ たまみ	NTT労組中央本部
監 事	北野 眞一 きたの しんいち	情報労連中央本部
監 事	徳永 健 とくなが けん	NTT労組ドコモ本部
顧 問	野田三七生 のだみなお	情報労連中央本部

IV 主要な業務の内容

●取扱共済制度一覧



総合(慶弔)共済

働く仲間が少しずつお金を出しあい、「仲間の誰かにお祝いごとや万一のことがあった時にそのお金を役に立てよう」、そんな絆から「総合(慶弔)共済」は生まれました。

■お支払い どんなときに・いくら？



【祝金】

結婚	20,000円
出生	10,000円
小学校入学	10,000円
中学校卒業	10,000円
銀婚	20,000円



【見舞金】

本人死亡	300,000円
配偶者死亡	100,000円
親死亡	30,000円
障害	最高300,000円
傷病(30日以上 of 休業)	15,000円
住宅災害・火災等	最高200,000円
住宅災害・地震等	最高 50,000円
住宅災害・風水害等	最高200,000円

など

■契約対象 組合員本人〈職域内で勤務する65歳以下の組合員〉

■掛 金 月払500円

生命共済〈ささえ愛〉

■お支払い どんなときに・いくら？



	1口あたりの 最高保障額	30口契約の場合
死亡 病気・不慮の事故等で死亡	100万円	3,000万円
重度障害 病気・不慮の事故等で 治療終了後も残る重度障害	100万円	3,000万円

■**契約対象** 組合員本人・配偶者（最高3,000万円保障。年齢による限度口数があります）
組合員と同一生計の子ども（最高500万円保障）

■**掛 金** 年齢群団に応じた掛金

【組合員本人・配偶者・年払時 1口あたりの掛金】

12月1日時点の満年齢	年払掛金	12月1日時点の満年齢	年払掛金	12月1日時点の満年齢	年払掛金
～35歳	1,800円	61～65歳	6,400円	81～84歳	73,500円
36～45歳	2,100円	66～70歳	11,700円	※子ども契約は、年齢に関係なく 1口あたり1,200円（年払時）。	
46～55歳	2,900円	71～75歳	20,500円		
56～60歳	4,500円	76～80歳	40,300円		

- 特 長**
- ①1年更新のためライフステージにあわせた保障額の変更ができます。
 - ②退職した後も退職組合員として84歳まで更新可能（一定の条件があります）
 - ③原因が病気でも不慮の事故でも保障額は変わりません。
 - ④組合員本人・配偶者とも最高3,000万円の保障

交通災害共済〈しぐなる〉

■お支払い どんなときに・いくら？

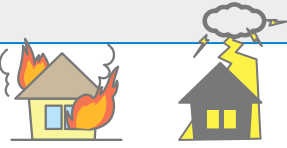
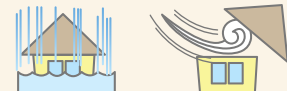
	1口契約の場合	8口契約の場合
死亡	100万円	800万円
障害	100万円～4万円	800万円～32万円
入院（1日につき）	1,500円	12,000円
通院（1日につき）	800円	6,400円

- 契約対象** 組合員本人、組合員と同一生計の親族
- 掛 金** 年払時 1口あたり500円（年齢にかかわらず）
- 特 長**
- ①交通機関にかかわる事故を保障
 - ②同一生計であれば年齢にかかわらず契約可能
（組合員本人の契約不要）
 - ③国内外の交通事故が対象
 - ④入通院は1日目から保障



火災共済〈すまいる〉

■お支払い どんなときに・いくら？

		住宅への保障 1口あたりの 最高保障額	家財への保障 1口あたりの 最高保障額
火災・落雷などによる損害		10万円	10万円
風水害などによる損害		3万円	3万円

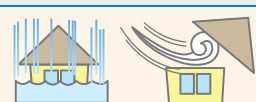
■掛金【年払時 1口あたりの掛金】

	木造	耐火(鉄筋)
住宅契約	80円	40円
家財契約	80円	40円

- 特長
- ①全国一律の掛金
 - ②70%以上の焼破損割合で「全焼損」となります
 - ③火災等での共済金支払いの場合に「再取得価額」で保障
 - ④「家財契約」では落雷による家電製品の被害にも対応

自然災害共済〈おまかせ〉 火災共済〈すまいる〉にセットして契約 ※単独契約不可

■お支払い どんなときに・いくら？

		大型タイプ		標準タイプ	
		住宅への保障 1口あたりの 最高保障額	家財への保障 1口あたりの 最高保障額	住宅への保障 1口あたりの 最高保障額	家財への保障 1口あたりの 最高保障額
風水害 などによる 損害		7万円	7万円	5万円	5万円
地震・津波 などによる 損害		3万円	3万円	2万円	2万円
盗難による 損害		10万円	10万円	10万円	10万円

■掛金【年払時 1口あたりの掛金】

契約タイプ	木造		耐火(鉄筋)	
	大型タイプ	標準タイプ	大型タイプ	標準タイプ
住宅契約	155円	105円	95円	65円
家財契約	155円	105円	95円	65円

- 特長
- ①全国一律の掛金
 - ②地震・津波などによる被害に対応
 - ③風水害や地震などの被害のほかに、住宅内に収納されている家財の盗難も保障(家財契約)

マイカー共済（契約引受団体：全労済）

電通共済生協おすすめの安心パッケージプラン

基本補償



対人賠償（無制限）

対物賠償（無制限）

人身傷害補償（5,000万円）

搭乗者傷害（1,000万円）

プラス 車両損害補償 選べる3タイプ



一般補償



車同士の事故や火災・自然災害・盗難等だけでなく、単独事故・あて逃げまで補償。

エコノミーワイド



相手車両が確認できる車同士の事故に、火災・爆発・自然災害・盗難等への補償もプラス。



エコノミー



相手車両が確認できる車同士の事故による損害を補償。車同士の事故時の早期解決にこの補償を！

※車両損害補償は、車種や条件により付帯できない場合があります。

自身・家族・同乗者のための「人身傷害補償」

自動車事故で被共済者が死傷した場合に、自身の過失を含め実損害額を補償。示談を待たずに先行支払いされます。

自身の車のための「車両損害補償（一般補償タイプ）」

単独事故やあて逃げ、盗難など、さまざまなアクシデントによる自身の車への損害を補償します。



■その他 割引制度

お手ごろな「職域掛金」に、さらに「団体割引」が適用されます

無事故等級、運転者年齢条件特約、子供特約、運転車本人・配偶者限定特約、ハイブリッド車割引、福祉車両割引、AEB割引、複数契約割引、セカンドカー割引、新車割引

自賠責共済（契約引受団体：全労済）

「自動車損害賠償保障法」にもとづき、すべての自動車に加入が義務付けられています。マイカー共済＋自賠責共済のセット加入をおすすめしています。

損害の種類	損害の範囲	支払限度（被害者1名あたり）
死 亡	葬儀費、逸失利益、慰謝料	最高 3,000 万円
後遺障害	逸失利益、慰謝料等	最高 4,000 万円 ※常時介護のときです。
傷 害	治療関係費、休業損害、 文書料、慰謝料	最高 120 万円



電通共済生協 いつでもどこでも メディカル相談ダイヤル



突然の発病やケガ、日常のおからだの悩み、こころ、専門的な医療・健康から
育児・栄養、お薬の相談までお気軽にご相談いただけます。

メディカル相談ダイヤルのサービスメニュー

臨床心理士による高度なサービス

★ こころのカウンセリングサービス（事前予約）

気分が優れない、やる気がしないといったことから、人間関係、ご自身の性格、プライベートに関するお悩みまで、臨床心理士がお話を伺い、情報提供やアドバイスをいたします。

現役の救急科専門医が常駐

★ 緊急医療・一般健康相談サービス（24時間365日）

5年以上の臨床経験を有した看護師が、180時間以上のコールセンター用医療相談研修を経て、突然の発病やケガから、日常のおからだの悩みについてお応えいたします。また、救命救急センターに勤務する「現役の救急科専門医」が24時間365日常駐し、相談業務の監視や看護師へのアドバイスをこなしています。

医療機関への道順も案内

★ 医療機関案内サービス（24時間365日）

専門医がいる病院、夜間・休日の救急医療機関や出張先・旅先での最寄りの医療機関等、全国約45万件のデータベースからお客様のご要望にあった医療機関等をご案内いたします。

子育てに関することから、食に関することまで、幅広い関連情報のご提供

★ 育児・栄養相談サービス（24時間365日、一部事前予約）

病気・ケガ、予防接種・健康相談、発達・育児など、「育児」に関することから、離乳食～高齢者向けレシピ、病中病後のお食事、生活習慣病予防など、「食」に関する様々なご相談にお応えいたします。

経験豊富な看護師が対応！

★ 女性専用健康相談サービス（事前予約）

臨床経験豊富な女性の看護師が、コールセンター向けの医療相談研修を経て、女性特有の発病や気になる症状、日常のおからだの悩みについてお応えいたします。

さまざまな薬剤情報のご提供

★ お薬相談サービス（24時間365日、一部事前予約）

処方された薬や市販薬の効果や副作用、飲み合わせなど、「お薬」に関する様々なご相談にお応えいたします。

専門医による高度なサービス

★ 予約制専門医相談サービス（事前予約）

30以上の診療科の専門医が十分な時間をかけて、日頃のおからだの不調やお悩みに関するご相談に専門的に応えます。

臓器ごとのがん専門医による高度なサービス

★ 予約制専門医「がん」相談サービス（事前予約）

臓器ごと、進行ステージごとに、「根治をめざすのか」、「緩和ケア」が目的なのか、すべての可能性を考慮した最適な治療法をがん専門医が的確にアドバイスいたします。

【ご利用上のご注意】※本サービスは、東京海上日動メディカルサービス（株）に委託しております。※本サービスは、医療・健康に関する助言、情報提供を行うもので、効果を保障するものではありません。※本サービスは、医療・健康に関する助言、情報提供を行うもので、医療行為にあたる対応は行いません。※プライバシーは厳守しております。※本サービスで取得した情報は、希死念慮者等の緊急時対応を含め、開示することはできません。※ご相談内容によりご要望に添えない場合がございます。※対面カウンセリングについては、地域や内容によりご要望に添えない場合がございます。

V 子会社の業務および財産の状況に関する事項

名称・事業の内容等

会社名	コアサポート株式会社
所在地	東京都千代田区神田淡路町二丁目101番地ワテラストワー
資本金	8,000万円
主要な事業内容	・電通共済生協、情報労連共済本部、NTT労組からの受託事業等 ・損害保険募集代理店事業 団体総合生活保険（医療・傷害〈Myセーフティ〉）に関する業務 NTTグループ団体傷害保険（まもるくん）に関する業務 ・生命保険募集代理店事業 情報労連組織を対象とする生命保険（疾病保障付生命共済《やすらぎ》）に関する業務
設立年月日	1985年6月8日
電通共済生協の議決権の割合	65%
電通共済生協の子会社等の議決権の割合	-

団体総合生活保険

医療・傷害〈Myセーフティ〉

「医療・傷害〈Myセーフティ〉」は団体総合生活保険のペットネームです。

■お支払い どんとときにいくら？

医療保障

病気で入院したときの費用が心配…

	1口タイプ
入院の保障	日額5,000円 × 入院日数 [1入院60日/通算制限無し]
手術・放射線治療の保障	2.5万円・5万円・20万円
先進医療	5万円～305万円

傷害保障

日常生活におけるケガが心配…

	1口タイプ
入院の保障	日額5,000円 × 入院日数 [1入院180日/通算制限無し]
通院の保障	日額1,500円 × 通院日数 [90日(事故の日から180日以内)]
手術の保障	2.5万円・5万円
死亡・後遺障害※の保障	100万円

※後遺障害保険金は程度に応じて保険金の4%～100%をお支払いいたします。

■掛金 団体割引等40.5%を適用(2018年12月1日午前0時※～2019年12月1日午後4時)

(単位：円)

※新規加入の場合

<医療保障>1口タイプ

(単位：円)

被保険者年齢	月払掛金	被保険者年齢	月払掛金	被保険者年齢	月払掛金
0～4歳	340	30～34歳	420	60～64歳	1,730
5～9歳	240	35～39歳	440	65～69歳	2,350
10～14歳	220	40～44歳	490	70～74歳	3,210
15～19歳	250	45～49歳	650	75～79歳	4,010
20～24歳	360	50～54歳	850	80～84歳	4,810
25～29歳	400	55～59歳	1,190		

※医療保障の新規加入は、2018年12月1日時点で満年齢65歳以下の方(健康状態等告知あり)

<傷害保障>1口タイプ

(単位：円)

月払掛金					
本人型	630	夫婦型	1,230	家族型	2,480
				家族型(配偶者除く)	1,880

<オプション>個人賠償責任、親介護保障、携行品損害、ホールインワン・アルパトロス費用、借家人賠償責任 他

- 特徴
- ①「病気による手術・入院」や「交通事故を含む万一のケガ」にワンストップで備えることができます。
 - ②団体割引等40.5%適用の割安な掛金で加入することができます。
 - ③個人賠償責任、親介護保障、借家人賠償責任など各種オプションを組み合わせることができます。

※このご案内は団体総合生活保険の概要についてご紹介したものです。ご加入にあたっては、必ず「重要事項説明書」をよくお読みください。ご不明な点等がある場合には、コアサポート株式会社までお問い合わせください。

- 取扱代理店：コアサポート株式会社 コアサポートコールセンタ ☎ 0120-141-175
- 幹事引受保険会社：東京海上日動火災保険株式会社

●損益の状況（第33期）

（単位：千円）

2016年8月1日～2017年7月31日		
売上高 計	841,600	
売上原価 計	0	
売上総利益		841,600
販売費・一般管理費 計	703,439	
営業利益		138,161
営業外収益 計	91	
営業外費用 計	0	
経常利益		138,253
特別利益 計	0	
特別損失 計	0	
税引前当期利益（損失）		138,253
法人税、住民税及び事業税		43,708
当期利益（損失）		94,545

●損益の状況（第34期）

（単位：千円）

2017年8月1日～2018年7月31日		
売上高 計	792,373	
売上原価 計	0	
売上総利益		792,373
販売費・一般管理費 計	670,554	
営業利益		121,819
営業外収益 計	63	
営業外費用 計	0	
経常利益		121,882
特別利益 計	0	
特別損失 計	0	
税引前当期利益（損失）		121,882
法人税、住民税及び事業税		40,830
当期利益（損失）		81,052

●貸借の状況（第33期）

（単位：千円）

2017年7月31日 現在

資 産 の 部		負 債 の 部	
科 目	金 額	科 目	金 額
流動資産合計	970,665	流動負債 計	81,284
固定資産合計	141,491	固定負債 計	59,242
		負債の部合計	140,526
		純 資 産 の 部	
		【株主資本】	
		資本金	80,000
		利益剰余金 計	891,630
		株主資本 計	971,630
		純資産の部合計	971,630
資産の部合計	1,112,157	負債・純資産の部合計	1,112,157

●貸借の状況（第34期）

（単位：千円）

2018年7月31日 現在

資 産 の 部		負 債 の 部	
科 目	金 額	科 目	金 額
流動資産合計	942,113	流動負債 計	48,229
固定資産合計	158,932	固定負債 計	64,134
		負債の部合計	112,363
		純 資 産 の 部	
		【株主資本】	
		資本金	80,000
		利益剰余金 計	908,682
		株主資本 計	988,682
		純資産の部合計	988,682
資産の部合計	1,101,046	負債・純資産の部合計	1,101,046

VI 支払共済金実績

52年間で489万件、3,679億円のお支払いをしました。

年度	総合(慶弔)共済		火災共済		自然災害共済		生命共済						
	件数	金 額	件数	金 額	件数	金 額	本人契約		配偶者契約		子ども契約		
	件数	金 額	件数	金 額	件数	金 額	件数	金 額	件数	金 額	件数	金 額	
1	23,515	132,755	690	27,924			40	14,730					
2	58,046	345,291	188	56,855			143	69,470					
3	62,510	357,574	247	70,868			132	67,920					
4	69,165	396,826	2,340	83,936			140	80,850					
5	76,170	449,654	2,460	88,627			168	95,750					
6	81,814	473,624	10,171	209,287			272	129,055					
7	85,672	478,075	5,393	182,542			281	125,600					
8	106,973	685,509	1,225	227,341			354	211,990					
9	106,513	809,295	533	238,594			379	316,220					
10	119,766	862,326	602	327,562			433	459,455	7	1,560			
11	108,375	863,269	1,126	698,751			505	709,585	36	46,880			
12	101,477	842,926	654	487,285			529	840,360	51	74,500			
13	100,385	959,258	512	412,751			558	909,650	69	98,600			
14	108,524	1,142,275	464	516,064			589	1,134,680	105	195,300			
15	108,539	1,145,188	624	562,254			588	1,412,125	93	227,400	3	4,000	
16	103,766	1,138,305	615	528,028			604	1,610,410	105	251,200	2	3,000	
17	106,443	1,173,269	1,040	603,895			611	1,756,800	128	269,000	5	8,000	
18	106,128	1,133,311	855	725,361			488	2,488,700	145	383,800	17	26,280	
19	109,297	1,065,696	615	666,853			393	2,012,852	125	326,300	18	28,000	
20	109,081	1,061,835	1,011	771,766			413	2,168,117	147	356,000	18	25,700	
21	100,822	1,338,209	826	634,469			393	2,070,430	134	381,150	24	37,900	
22	99,107	1,449,604	1,665	770,972			407	2,465,200	115	343,900	24	39,300	
23	98,515	1,502,561	1,030	562,094			621	3,065,969	141	429,450	30	40,100	
24	93,741	1,416,763	1,246	684,311			388	2,195,150	141	452,700	28	50,900	
25	90,956	1,377,195	1,462	671,635			412	2,405,600	109	320,500	26	41,700	
26	91,128	1,427,997	8,773	2,043,150			429	2,821,950	122	360,600	39	66,000	
27	83,120	1,297,584	1,667	692,799			408	2,851,050	110	321,850	29	53,100	
28	88,961	1,428,208	2,800	1,092,631			464	3,067,150	112	355,800	32	58,500	
29	97,847	1,873,837	8,123	2,953,660			434	2,932,600	102	316,100	41	70,400	
30	78,085	1,306,125	2,306	888,117			451	3,343,800	122	384,500	38	68,400	

「年度」は、電通共済生協の事業年度を表します。

支払共済金（件数、金額）には、電通共済生協事業（付加給付）、労組事業（自然災害見舞金）が含まれています。

「マイカー共済」第38期以降は、受託共済（支払いは全労済から）としての数値を表示しています。

（単位：件、千円）

	年度	交通災害共済		マイカー共済		車両損害補償		自賠責共済		合 計		西暦（年）
		件数	金 額	件数	金 額	件数	金 額	件数	金 額	件数	金 額	
	1									24,245	175,409	1967
	2									58,377	471,616	
	3									62,889	496,362	1968
	4	13	1,659							71,658	563,271	1969
	5	631	40,242							79,429	674,273	1970
	6	1,159	77,154							93,416	889,120	1971
	7	1,314	90,019							92,660	876,236	1972
	8	1,310	109,084							109,862	1,233,924	1973
	9	1,812	151,642							109,237	1,515,751	1974
	10	2,357	230,120							123,165	1,881,023	1975
	11	2,503	277,046							112,545	2,595,531	1976
	12	2,702	271,780							105,413	2,516,851	1977
	13	2,827	328,075							104,351	2,708,334	1978
	14	2,973	374,495							112,655	3,362,814	1979
	15	3,089	437,492							112,936	3,788,459	1980
	16	2,598	716,738							107,690	4,247,681	1981
	17	4,511	995,018							112,738	4,805,982	1982
	18	4,874	1,044,768							112,507	5,802,220	1983
	19	4,652	1,115,321							115,100	5,215,022	1984
	20	4,584	1,068,474							115,254	5,451,892	1985
	21	4,684	1,105,208							106,883	5,567,366	1986
	22	5,294	1,192,469	368	283,764					106,980	6,545,209	1987
	23	5,083	1,296,384	3,302	743,409					108,722	7,639,967	1988
	24	5,174	1,370,960	4,620	1,172,744					105,338	7,343,528	1989
	25	11,211	1,149,781	5,117	1,167,124					109,293	7,133,535	1990
	26	11,744	1,212,256	5,581	1,602,642					117,816	9,534,595	1991
	27	11,123	1,113,557	5,765	1,675,210					102,222	8,005,150	1992
	28	12,837	1,234,180	6,758	1,969,271					111,964	9,205,740	1993
	29	13,621	1,313,380	6,830	2,059,274					126,998	11,519,251	1994
	30	12,512	1,237,051	6,015	1,866,160					99,529	9,094,153	1995

年度	総合(慶弔)共済		火災共済		自然災害共済		生 命 共 済						
	件数	金 額	件数	金 額	件数	金 額	本人契約		配偶者契約		子ども契約		
	件数	金 額	件数	金 額	件数	金 額	件数	金 額	件数	金 額	件数	金 額	
31	77,357	1,306,872	1,881	882,512			405	3,314,100	106	366,900	38	73,300	
32	79,654	1,393,080	1,667	783,432			459	3,667,950	142	483,100	36	72,950	
33	76,845	1,354,182	3,324	1,162,712			487	4,141,900	143	557,500	43	105,200	
34	74,808	1,315,513	5,629	1,700,346			463	4,033,500	133	500,650	33	78,300	
35	79,617	1,505,419	4,098	1,316,014	137	18,640	480	4,533,000	151	565,000	45	89,900	
36	80,747	1,620,941	2,015	785,042	93	18,094	498	4,702,350	123	427,100	36	66,500	
37	59,374	1,072,624	2,353	1,302,430	125	30,023	363	3,405,450	112	431,450	32	71,200	
38	56,900	1,043,985	1,990	871,458	163	30,692	331	3,373,700	112	462,900	34	82,700	
39	56,684	1,058,648	12,881	3,157,348	1,456	524,764	281	2,804,500	88	350,500	24	66,000	
40	52,566	1,019,533	5,225	956,205	512	129,149	279	3,375,300	119	546,600	21	50,000	
41	51,119	1,006,505	5,646	1,271,482	593	146,376	326	3,772,000	86	372,000	31	77,000	
42	50,653	1,031,120	3,790	1,142,092	487	147,962	298	3,422,000	115	496,000	27	90,000	
43	49,322	1,013,486	2,329	547,873	306	64,158	322	3,647,000	96	442,000	19	61,000	
44	46,171	920,653	1,777	484,744	495	109,815	294	3,100,000	107	508,000	21	53,000	
45	51,144	1,122,805	12,439	2,640,852	5,887	2,279,972	310	2,930,000	120	479,000	14	38,000	
46	50,204	1,060,197	9,134	1,813,334	3,862	1,396,743	330	3,244,000	140	561,000	10	26,000	
47	48,825	1,027,537	2,992	711,206	868	182,467	360	3,187,000	112	494,000	6	14,000	
48	47,948	967,486	5,014	881,832	1,499	293,489	340	2,762,000	101	404,000	7	20,000	
49	47,843	970,744	3,359	792,769	890	202,805	387	2,914,000	120	493,000	12	36,000	
50	46,627	939,855	3,704	666,312	3,330	1,007,847	392	2,853,000	123	398,000	4	11,000	
51	46,796	932,802	2,480	500,782	1,215	461,807	423	2,938,000	140	508,100	8	30,000	
52	45,201	910,438	3,550	594,598	1,047	213,591	422	2,668,000	123	383,000	6	19,000	
合計	4,050,846	54,528,769	158,540	43,445,757	22,965	7,258,394	20,277	118,621,968	4,831	16,126,890	881	1,852,330	

「年度」は、電通共済生協の事業年度を表します。

支払共済金（件数、金額）には、電通共済生協事業（付加給付）、労組事業（自然災害見舞金）が含まれています。

「マイカー共済」第38期以降は、受託共済（支払いは全労済から）としての数値を表示しています。

（単位：件、千円）

	年度	交通災害共済		マイカー共済		車両損害補償		自賠償共済		合 計		西暦（年）
		件数	金 額	件数	金 額	件数	金 額	件数	金 額	件数	金 額	
	31	13,967	1,424,612	5,659	1,946,907					99,413	9,315,203	1996
	32	13,468	1,367,614	6,081	2,069,916					101,507	9,838,042	1997
	33	14,318	1,529,174	6,652	1,889,738			75	57,147	101,887	10,797,553	1998
	34	14,767	1,419,925	7,699	2,214,552	39	9,380	189	85,642	103,760	11,357,808	1999
	35	14,211	1,435,786	8,443	2,698,119	238	66,492	219	135,401	107,639	12,363,771	2000
	36	14,460	1,385,048	8,483	2,690,417	376	10,426	247	101,753	107,078	11,807,671	2001
	37	12,972	1,266,529	8,769	2,375,908	466	118,314	246	125,768	84,812	10,199,696	2002
	38	12,660	1,204,397	8,392	2,534,126	1,829	422,733	217	203,048	82,628	10,229,739	2003
	39	12,374	1,113,684	9,475	2,743,491	3,089	682,514	146	97,852	96,498	12,599,301	2004
	40	10,230	1,054,121	3,224	2,637,324	4,095	860,045			76,271	10,628,277	2005
	41	9,642	1,046,690	9,712	2,561,602	5,121	1,079,853			82,276	11,333,508	2006
	42	8,831	988,573	9,595	2,491,153	5,937	1,221,402			79,733	11,030,302	2007
	43	6,043	853,106	9,390	2,525,215	6,683	1,346,773			74,510	10,500,611	2008
	44	4,477	863,570	9,749	2,774,185	7,421	1,503,842			70,512	10,317,809	2009
	45	3,993	765,765	9,788	2,437,202	8,430	1,666,076			92,125	14,359,672	2010
	46	3,786	704,787	9,785	2,644,544	8,799	1,775,876			86,050	13,226,481	2011
	47	3,679	700,324	9,498	2,423,699	8,652	1,773,618			74,992	10,513,851	2012
	48	3,482	658,135	8,881	2,297,382	7,303	1,632,103			74,575	9,916,427	2013
	49	3,428	700,670	8,298	2,279,518	6,637	1,505,621			70,974	9,895,127	2014
	50	3,157	624,643	7,767	2,150,765	5,564	1,310,239			70,668	9,961,661	2015
	51	2,729	511,314	6,551	2,007,312	3,910	980,544			64,252	8,870,661	2016
	52	2,527	556,694	5,457	1,746,278	3,356	901,961			61,689	7,993,560	2017
	合計	326,393	41,729,514	221,704	64,678,951	87,945	18,867,812	1,339	806,611	4,895,721	367,916,996	合計

電通共済生協のあゆみ

年	主なできごと	主なあゆみ
1966	ビートルズ東京公演	全電通第19回全国大会で共済事業開始決定
1967	グループサウンズブーム	「全電通共済生協」設立認可 「総合共済」事業開始 「火災共済」「生命共済」(労組事業) 「交通災害共済」(全労済元受)
1969	アポロ11号月面着陸	「火災共済」認可(生協事業として開始)
1970	大阪万博開催	「交通災害共済」認可(生協事業として開始)
1973	第1次オイルショック	全電通退職者の会発足
1975	山陽新幹線 博多へ	「全電通共済生協」から「電通共済生協」へ 退職者共済開始
1976	ロッキード事件	酒田大火→被災件数20件 支払共済金5,500万円にのぼる
1978	インベーダゲーム	電通共済生協会館落成(東京・駒込)
1982	500円硬貨登場	「生命共済」認可(生協事業)
1983	東京ディズニーランド開園	電算機導入によるオンライン化
1985	電電公社民営化 NTTに	ユニオンサービス株式会社(現ユアサポート(株))設立
1988	青函トンネル開通 本四架橋開通	「マイカー共済」元受事業開始
1991	湾岸戦争	台風19号 九州上陸、日本海縦断、北海道再上陸 約2,700件の被害
1993	サッカーJリーグ開幕	電通共済生協システム更改
1995	阪神淡路大震災 地下鉄サリン事件	総合(慶弔)共済見舞金について特別措置実施(阪神・淡路大震災) 組合員・家族の死亡(36人) 家屋の全壊(737件) など 約7,000件を超える被害
1996	病原性大腸菌O-157	「火災共済」最高限度額引き上げ 6,000万円保障 (住宅4,000万円 家財2,000万円) 「生命共済」最高限度額引き上げ 3,000万円保障
1997	金融機関連続破綻	「自賠責共済」事業開始
1999	NTT再編持株会社化 NTT労働組合第1回中央委員会	電通共済生協システム更改 「総合(慶弔)共済」・「生命共済」契約年齢条件改正
2000	介護保険制度発足	マイカー共済「コールセンタ」開設 「自然災害共済」事業開始(生協事業)
2001	アメリカ同時多発テロ	電通共済生協ホームページ開設
2002	日韓共同開催ワールドカップ	「生命共済」年齢群団別掛金改正
2003	新型肺炎SARS	情報労連継続組合員化実施
2004	新潟県中越地震	電通共済生協新システム運用開始 「マイカー共済」全労済へ統合 「元受事業」から「受託事業」へ NTT労組継続組合員化実施

年	主なできごと	主なあゆみ
2005	愛 地球博	電通共済生協コールセンタ通年設置 電通共済生協新事務所開設（東京都千代田区神田須田町2丁目6-6） 「自賠責共済」事業を全労済へ包括移転
2006	第1回WBC日本優勝	組合員Webサービス開始
2007	公的年金記録問題	「改正消費生活協同組合法」成立
2008	サブプライムローン	退職者の組合員資格制定（生協法改正による）
2009	政権交代	リスク管理・コンプライアンス委員会設置
2010	高齢者所在不明問題	保険法施行に伴う共済事業規約改正 「生命共済」・「火災共済」・「自然災害共済」制度改正
2011	東日本大震災 「なでしこジャパン」 FIFA女子ワールドカップ 初優勝	4項目にわたる特別措置実施（東日本大震災） 元受4共済の契約始期を12月1日に統一 ブロック事業推進体制の導入
2012	金環日食 東京スカイツリー開業	東日本大震災 共済金等支払額約53億円（7月末）にのぼる 第69回通常総代会を岩手県花巻で開催
2013	富士山 世界遺産登録	電通共済生協新事務所開設（東京都千代田区神田淡路町2丁目101番地） ブロック事業推進体制の全国展開 退職組合員加入資格の見直し
2014	消費税率の引き上げ （5%から8%へ） 富岡製糸場と絹産業遺産群 世界遺産登録	医療・傷害<Myセーフティ>の募集開始 ユアサポート（株）ホームページ開設
2015	北陸新幹線開業 マイナンバー（個人番号）通知	ユアサポート（株）創立30周年 交通安全フェア in 所沢を開催 火災共済、自然災害共済制度改定
2016	平成28年（2016）熊本地震 伊勢志摩サミット開催 北海道新幹線開通	特別措置実施（平成28年（2016年）熊本地震） マイカー共済制度改定
2017	米新大統領就任 九州北部豪雨	創立50周年記念事業の実施 生命共済制度改定 元受コールセンタを外部委託
2018	平昌オリンピック 大阪北部地震（M6.1） 平成30年7月豪雨 北海道胆振東部地震（M6.7）	自然災害共済・地震総支払限度額引き上げ 3,500億→4,500億 Myセーフティ 2018年12月から引受年齢（0～84歳）拡大 マイカー共済、団体割引（7.5%）再開（8月）

VIII 社会貢献活動・支援活動

2017年度は、情報労連が主催する環境保全に関する取り組みを中心に「全国環境一斉行動」「東北被災地視察学習会」「通建連合 東日本大震災に伴う復興支援活動」などに支援を行ないました。

また日本補助犬協会への活動支援として、「補助犬パピースポンサー」となっています。

全国環境一斉行動(2018年5月19日を中心に各都道府県で実施)

情報労連が「環境問題に対する意識を高めるため」に実施する「全国環境一斉行動」に対し、支援を行ないました。



東北被災地視察学習会(2017年11月)

情報労連が被災地の復興支援と風化防止、震災の経験、教訓を共有し、災害発生時の対応に活かすことを目的として開催した「東北被災地視察学習会」に支援を行ないました。



通建連合 東日本大震災に伴う復興支援活動

通建連合主催の東日本大震災からの復興・再生に向けて取り組みを行っているボランティア活動に支援を行ないました。



日本補助犬協会

電通共済生協グループでは日本補助犬協会の身体障害者補助犬(盲導犬・介助犬・聴導犬)への活動支援として、「補助犬パピースポンサー」となっています。



電通共済生協が補助犬パピースポンサーとなっている「あゆみちゃん」

1 主要な業務の状況を示す指標

●直近5事業年度における主な経営指標

(単位：千円)

区 分	2013年度	2014年度	2015年度	2016年度	2017年度
経常収益	17,652,674	17,270,885	18,297,054	17,347,903	16,505,684
経常剰余金	2,337,027	1,347,040	2,035,428	1,865,844	2,090,015
当期剰余金	1,785,167	1,117,720	1,626,291	1,040,277	1,634,938
出資金	2,415,325	2,786,084	3,053,472	3,382,725	3,423,871
出資口数	48,306千口	55,721千口	61,069千口	67,654千口	34,238千口
純資産額	23,530,801	24,370,301	25,844,462	26,371,676	27,583,303
総資産額	35,411,097	37,142,638	38,510,378	39,193,258	40,458,319
責任準備金残高	8,611,210	9,316,944	9,433,773	9,745,486	9,785,328
有価証券残高	17,148,120	19,133,410	18,142,350	17,690,430	20,274,810
支払余力比率	2,219% (1,191%)	(注) 1,235%	1,354%	1,398%	1,505%
利用分量割戻金 (共済の種類)	226,604	222,575	260,973	213,491	210,065
	火災共済	火災共済	火災共済	火災共済	火災共済
	413,103	350,247	400,860	170,082	266,435
	生命共済	生命共済	生命共済	生命共済	生命共済
職員数	60人	56人	55人	56人	54人
保有契約高	7,799,014 百万円	7,578,320 百万円	7,315,085 百万円	7,107,246 百万円	6,954,952 百万円

(注)1 2013年度()内に記載している数値は、新算出基準を2013年度に適用したと仮定して算出した数値です。

(注)2 2014年度より支払余力比率の新算出基準を適用しています。

2 直近の2事業年度における事業の指標

① 共済の種類ごとの新契約高

(単位：百万円)

共済の種類	2016年度	2017年度
総合（慶弔）共済	2,619	2,704
火災共済	41,584	37,694
自然災害共済	24,834	20,065
生命共済	27,624	36,523
交通災害共済	14,788	15,380

② 共済の種類ごとの保有契約高と増加率

(単位：百万円)

共済の種類	2016年度		2017年度	
		増加率		増加率
総合（慶弔）共済	65,199	△1.9%	64,107	△1.6%
火災共済	2,866,628	△1.7%	2,822,944	△1.5%
自然災害共済	792,526	0.6%	794,361	0.2%
生命共済	1,260,235	△4.8%	1,239,050	△1.6%
交通災害共済	2,122,741	△4.3%	2,034,565	△4.1%

③ 共済契約の種類ごとの保障機能別保有契約高

(単位：百万円)

区 分		共済の種類	保有契約高	
			2016年度	2017年度
死亡保障	普通死亡	総合（慶弔）共済	65,199	64,107
		生命共済	1,260,235	1,239,050
	交通事故による災害死亡	交通災害共済	2,122,741	2,034,565
入院保障	交通事故による災害入院	交通災害共済	573,140	549,332

交通事故による場合を除いた災害死亡保障額は、普通死亡保障額と同額です
 重度障害時の障害保障額は、普通死亡保障額と同額です

④ 共済の種類ごとの支払共済金の額

(単位：千円)

共済の種類	2016年度	2017年度
総合（慶弔）共済	932,802	910,438
火災共済	500,782	594,598
自然災害共済	461,807	213,591
生命共済	3,476,100	3,070,000
交通災害共済	511,314	556,694

⑤ 新契約平均共済金額および保有契約平均共済金額

(単位：千円)

共済の種類	2016年度		2017年度	
	新契約 平均共済金額	保有契約 平均共済金額	新契約 平均共済金額	保有契約 平均共済金額
総合（慶弔）共済	300	300	300	300
火災共済	15,604	17,858	15,335	17,913
自然災害共済	7,662	8,293	7,358	8,342
生命共済	5,115	6,787	5,643	6,734
交通災害共済	4,254	4,607	4,273	4,599

⑥ 支払余力比率の明細

	2016年度	2017年度
I. 支払余力総額(百万円)	31,804	32,573
1. 純資産の部 合計額 (剰余金の処分として支出する金額、評価・換算差額等、繰延資産を除く)	19,429	19,845
2. 価格変動準備金	53	64
3. 異常危険準備金	6,946	7,307
4. 一般貸倒引当金	-	-
5. その他有価証券の評価差額の90%(負の場合は100%)	424	323
6. 土地の含み損益の85%(負の場合は100%)	-	-
7. 上記に準ずるものの額	4,952	5,034
II. リスクの合計額(百万円) $\sqrt{R_1^2 + (R_3 + R_4)^2} + R_2 + R_5$	4,550	4,328
R ₁ 一般共済リスク相当額	1,226	1,235
R ₂ 巨大災害リスク相当額	3,093	2,836
R ₃ 予定利率リスク相当額	-	-
R ₄ 資産運用リスク相当額	584	654
R ₅ 経営管理リスク相当額	98	95
III. 支払余力比率(%) $\frac{I}{II \times 1/2} \times 100$	1,398	1,505

(注)1 消費生活協同組合法施行規則および消費生活協同組合法施行規程にもとづいて算出しています。

(注)2 2014年度より支払余力比率の新算出基準を適用しています。

(注)3 生命共済事業と損害共済事業の両方を実施しているため、生命保険会社または損害保険会社のソルベンシーマージン比率と単純に比較できません。

⑦ 再共済・再保険を引き受けた機関の数

	2016年度	2017年度
再共済引受機関数	2	2

⑧ 支払再共済掛金・支払再保険料の上位を占める5社の割合

	2016年度	2017年度
支払再共済掛金の 上位を占める5社の割合	100%	100%

⑨ 未収の再共済金・再保険金の額

(単位：千円)

	2016年度	2017年度
未収再共済金	29,766	25,354

3 直近の2事業年度における財産の状況

① 貸借対照表（7月31日現在）

（単位：千円）

科 目	2016年度	2017年度
資産の部		
1. 現金及び預金	16,478,991	15,238,352
(1) 現金	476	432
(2) 預貯金	16,478,515	15,237,920
2. 有価証券	17,690,430	20,274,810
(1) 国債	4,254,490	3,519,050
(2) 地方債	8,379,320	8,733,610
(3) 社債	5,056,620	8,022,150
3. 再共済勘定	29,766	25,354
4. その他共済資産	2,335	4,687
(1) 未収共済掛金	1,935	4,127
(2) その他の共済資産	400	560
5. 前払費用	1,806	2,076
6. その他資産	306,579	309,059
(1) 未収金	59,595	64,950
(2) 差入保証金	235,994	236,173
(3) その他の資産	10,989	7,935
7. 業務用固定資産	2,019,353	1,895,828
(1) 減価償却資産	556,450	554,710
(2) 減価償却累計額	△336,657	△382,694
(3) 建設仮勘定	95,306	171,215
(4) 無形固定資産	1,704,254	1,552,597
8. 関係団体等出資金	1,070,710	1,070,710
(1) 関係団体出資金	843,710	843,710
(2) 子会社等株式	227,000	227,000
9. 繰延税金資産	1,593,285	1,637,440
資産合計	39,193,258	40,458,319

科 目	2016年度	2017年度
負債の部		
1. 共済契約準備金	10,755,313	10,759,031
(1) 支払備金	1,009,826	973,702
(2) 未経過共済掛金	2,799,741	2,477,854
(3) 異常危険準備金	6,945,744	7,307,474
2. 未払再共済勘定	166,922	170,497
3. その他共済負債	884,544	870,648
(1) 未払共済金	28,073	71,102
(2) その他の共済負債	856,470	799,545
4. 未払費用	219,234	203,946
5. その他負債	484,491	553,857
(1) 未払法人税等	393,462	446,167
(2) 未払消費税	7,482	11,805
(3) 未払金	74,304	80,794
(4) 預り金	4,229	4,623
(5) その他負債	5,012	10,466
6. 引当金	257,592	253,487
(1) 賞与引当金	14,300	14,400
(2) 退職給付引当金	218,386	205,806
(3) 役員退職給与引当金	24,906	33,281
7. 価格変動準備金	53,483	63,547
負債合計	12,821,582	12,875,016
純資産の部		
1. 組合員資本	26,032,375	27,324,885
(1) 出資金	3,382,725	3,423,871
(2) 剰余金	22,649,649	23,901,014
① 法定準備金	3,053,472	3,261,527
② 任意積立金	18,008,316	18,705,000
③ 当期末処分剰余金	1,587,860	1,934,486
(うち当期剰余金)	(1,040,277)	(1,634,938)
2. 評価・換算差額等	339,300	258,417
(1) その他有価証券評価差額金	339,300	258,417
純資産合計	26,371,676	27,583,303
負債・純資産合計	39,193,258	40,458,319

附
表

IX

② 損益計算書(8月1日～翌7月31日)

(単位：千円)

科 目	2016年度	2017年度	科 目	2016年度	2017年度
経常損益			3.事業経費	4,104,601	4,049,434
経常収益	17,347,903	16,505,684	(1)人件費	662,328	698,583
1.共済掛金等収入	12,956,712	12,358,172	(2)物件費	2,443,988	2,404,846
(1)受入共済掛金	11,919,959	11,519,708	(3)共済委託手数料	998,284	946,004
(2)受入再共済金	340,886	207,394	経常剰余金	1,865,844	2,090,015
(3)受入手数料	695,866	631,069	特別損益		
2.共済契約準備金戻入額	4,086,117	3,809,568	特別利益	-	-
(1)支払備金戻入額	1,151,269	1,009,826	特別損失	548,834	11,036
(2)未経過共済掛金戻入	2,934,848	2,799,741	税引前当期剰余金	1,317,010	2,078,979
3.資産運用収益	150,370	147,232	法人税等	396,907	456,866
4.その他経常収益	154,702	190,710	法人税等調整額	△120,174	△12,825
経常費用	15,482,058	14,415,668	当期剰余金	1,040,277	1,634,938
1.共済金等支払額	7,121,068	6,552,947	当期首繰越剰余金	270,899	299,548
(1)支払共済金	5,882,807	5,345,322	創立記念事業積立金取崩額	276,683	-
(2)支払再共済掛金	1,182,552	1,159,140	当期末処分剰余金	1,587,860	1,934,486
(3)支払返戻金	55,709	48,484			
2.共済契約準備金繰入額	4,256,388	3,813,286			
(1)支払備金繰入額	1,009,826	973,702			
(2)未経過共済掛金繰入	2,799,741	2,477,854			
(3)異常危険準備金繰入	446,819	361,729			

③ 剰余金処分計算書

(単位：千円)

区 分	2016年度	2017年度
1.当期末処分剰余金	1,587,860	1,934,486
2.任意積立金取崩額(創立記念事業積立金)	23,316	-
3.剰余金処分額	1,311,629	1,651,844
(1)法定準備金	208,055	162,343
(2)利用分量割戻金(火災共済)	213,491	210,065
(生命共済)	170,082	266,435
(3)任意積立金(共済リスク・経営諸リスク対応積立金)	300,000	-
(税効果調整積立金)	120,000	13,000
(職域退職餞別積立金)	300,000	200,000
(見舞金事業積立金)	-	700,000
(資産運用リスク積立金)	-	100,000
4.次期繰越剰余金	299,548	282,641

④ 有価証券の帳簿価額、時価および評価損益

(単位：千円)

区 分	2016年度			2017年度		
	帳簿価額	時 価	評価損益	帳簿価額	時 価	評価損益
国債	4,095,463	4,254,490	159,026	3,395,634	3,519,050	123,415
地方債	8,118,325	8,379,320	260,994	8,514,513	8,733,610	219,096
社債	5,005,913	5,056,620	50,706	8,006,146	8,022,150	16,003
合 計	17,219,702	17,690,430	470,727	19,916,295	20,274,810	358,515

「金融商品に関する会計基準」および「金融商品の時価等の開示に関する摘要点」を適用しています

4 経理に関する指標

① 責任準備金の積立方式及び積立率

未経過共済掛金および異常危険準備金について、事業規約に定められた方法により計上しております。

② 引当金明細

(単位：千円)

区 分	2016年度				2017年度			
	期首残高	当期増加額	当期減少額	期末残高	期首残高	当期増加額	当期減少額	期末残高
賞与引当金	13,500	14,300	13,500	14,300	14,300	14,400	14,300	14,400
退職給付引当金	216,758	14,757	13,130	218,386	218,386	18,798	31,379	205,806
役員退職給与引当金	16,531	8,375	-	24,906	24,906	8,375	-	33,281
合 計	246,789	37,432	26,630	257,592	257,592	41,573	45,679	253,487

③ 法定準備金および任意積立金等明細

(単位：千円)

区 分	2016年度				2017年度			
	期首残高	当期増加額	当期減少額	期末残高	期首残高	当期増加額	当期減少額	期末残高
法定準備金	2,786,084	267,387	-	3,053,472	3,053,472	208,055	-	3,261,527
任意積立金	17,582,000	703,000	276,683	18,008,316	18,008,316	720,000	23,316	18,705,000
共済リスク・経営 諸リスク対応積立金	9,000,000	300,000	-	9,300,000	9,300,000	300,000	-	9,600,000
職域退職餞別積立金	2,980,000	300,000	-	3,280,000	3,280,000	300,000	-	3,580,000
システム開発積立金	3,000,000	-	-	3,000,000	3,000,000	-	-	3,000,000
税効果調整積立金	1,602,000	3,000	-	1,605,000	1,605,000	120,000	-	1,725,000
資産運用リスク 積立金	700,000	-	-	700,000	700,000	-	-	700,000
災害対策積立金	100,000	-	-	100,000	100,000	-	-	100,000
創立記念事業積立金	200,000	100,000	276,683	23,316	23,316	-	23,316	-
合 計	20,368,084	970,387	276,683	21,061,788	21,061,788	928,055	23,316	21,966,527

④ 事業経費の明細

(単位：千円)

区 分	2016年度	2017年度
人件費	662,328	698,583
物件費	2,443,988	2,404,846
共済委託手数料	998,284	946,004
合 計	4,104,601	4,049,434

5 資産運用に関する指標

① 主要資産の平均残高および運用利回り

(単位：千円)

区 分	2016年度		2017年度	
	平均残高	運用利回り	平均残高	運用利回り
現金及び預金	17,285,955	0.03%	17,496,067	0.01%
有価証券	16,844,505	0.86%	17,926,910	0.80%
合 計	34,130,460	0.44%	35,422,977	0.41%

② 主要資産の構成および増減

(単位：千円)

区 分	2016年度			2017年度		
	残高	増減額	構成比	残高	増減額	構成比
現金及び預金	16,478,991	851,504	48.2%	15,238,352	△1,240,638	42.9%
有価証券	17,690,430	△451,920	51.8%	20,274,810	2,584,380	57.1%
合 計	34,169,421	399,584	100.0%	35,513,163	1,343,741	100.0%

③ 資産運用収益明細

(単位：千円)

区 分	2016年度	2017年度
利息及び配当金収入	150,370	147,232
合 計	150,370	147,232

④ 利息および配当金収入等明細

(単位：千円)

区 分	2016年度	2017年度
預金利息	5,567	2,216
有価証券利息配当金	144,803	145,016
合 計	150,370	147,232

⑤ 有価証券の種類別残高

(単位：千円)

区 分	2016年度		2017年度	
	金 額	構成比	金 額	構成比
国債	4,254,490	24.1%	3,519,050	17.3%
地方債	8,379,320	47.3%	8,733,610	43.1%
社債	5,056,620	28.6%	8,022,150	39.6%
合 計	17,690,430	100.0%	20,274,810	100.0%

⑥ 有価証券の残存期間別残高

(単位：千円)

区 分	2016年度					
	1年以下	1年超3年以下	3年超5年以下	5年超7年以下	7年超10年以下	10年超
国債	704,480	1,133,100	208,660	1,799,290	408,960	-
地方債	502,510	618,860	2,485,910	2,386,880	1,639,880	745,280
社債	201,590	1,735,970	1,531,840	203,080	199,940	1,184,200
合 計	1,408,580	3,487,930	4,226,410	4,389,250	2,248,780	1,929,480

区 分	2017年度					
	1年以下	1年超3年以下	3年超5年以下	5年超7年以下	7年超10年以下	10年超
国債	403,600	920,340	1,370,950	824,160	-	-
地方債	100,390	1,534,130	2,163,320	3,295,390	200,400	1,439,980
社債	1,608,040	2,014,130	719,300	-	897,700	2,782,980
合 計	2,112,030	4,468,600	4,253,570	4,119,550	1,098,100	4,222,960

6 その他の指標

●業務用固定資産の明細

(単位：千円)

資産の種類	2016年度					
	期 帳 簿 価 額	当 増 加 額	当 減 少 額	当 償 却 額	期 帳 簿 価 額	当 期 未 償 却 累計 額
減価償却資産	296,828	453	5,298	72,191	219,792	336,657
建物	52,645	-	-	2,540	50,105	10,371
建物付属設備	76,985	-	-	10,292	66,692	52,888
器具備品	167,198	453	5,298	59,358	102,994	273,397
建設仮勘定	425,959	340,511	671,164	-	95,306	
無形固定資産	869,040	1,388,046	-	552,832	1,704,254	
電話加入権	2,084	-	-	-	2,084	
ソフトウェア	866,956	1,388,046	-	552,832	1,702,169	
合 計	1,591,828	1,729,011	676,462	625,024	2,019,353	336,657

資産の種類	2017年度					
	期 帳 簿 価 額	当 増 加 額	当 減 少 額	当 償 却 額	期 帳 簿 価 額	当 期 未 償 却 累計 額
減価償却資産	219,792	5,900	622	53,055	172,015	382,694
建物	50,105	-	-	2,540	47,565	12,911
建物付属設備	66,692	-	-	8,910	57,781	61,799
器具備品	102,994	5,900	622	41,604	66,668	307,983
建設仮勘定	95,306	237,133	161,224	-	171,215	
無形固定資産	1,704,254	438,473	-	590,130	1,552,597	
電話加入権	2,084	-	-	-	2,084	
ソフトウェア	1,702,169	438,473	-	590,130	1,550,513	
合 計	2,019,353	681,507	161,847	643,185	1,895,828	382,694

消費生活協同組合法施行規則にもとづく索引

消費生活協同組合法施行規則 第209条関係

1 組合の概況及び組織に関する次に掲げる事項

- イ 業務運営の組織19
- ロ 役員の氏名及び役職名20
- ハ 事務所の名称及び所在地2

2 組合の主要な業務の内容2、21～24

3 組合の主要な業務に関する次に掲げる事項

- イ 直近の事業年度における事業の概況4～12
- ロ 直近の五事業年度における主要な業務の状況を示す指標として次に掲げる事項36
 - (1) 経常収益
 - (2) 経常剰余金又は経常損失金
 - (3) 当期剰余金又は当期損失金
 - (4) 出資金及び出資口数
 - (5) 純資産額
 - (6) 総資産額
 - (7) 責任準備金残高
 - (8) 貸付金残高…〈該当なし〉
 - (9) 有価証券残高
 - (10) 支払余力比率
 - (11) 法第52条第2項の区分ごとの剰余金の配当の金額
 - (12) 職員数
 - (13) 保有契約高又は正味収入共済掛金の額
- ハ 直近の二事業年度における事業の状況を示す指標として別表第三に定める記載事項

[別表第三]

●主要な業務の状況を示す指標

- 一 共済の種類ごとの新契約高及び保有契約高又は元受共済掛金37
- 二 共済契約の種類ごとの保障機能別保有契約高37
- 三 共済の種類ごとの支払共済金の額37

●共済契約に関する指標

- 一 共済の種類ごとの保有契約増加率37
- 二 新契約平均共済金額及び保有契約平均共済金額37
- 三 解約失効率…〈該当なし〉
- 四 月払契約の新契約平均共済掛金…〈該当なし〉
- 五 契約者割戻しの状況…〈該当なし〉
- 六 再共済又は再保険を引き受けた主要な者の数38
- 七 上位5社に対する支払再共済掛金又は支払再保険料の割合38
- 八 格付機関による格付に基づく区分ごとの支払再保険料の割合…〈該当なし〉
- 九 未収再共済金又は再保険金の額38

●経理に関する指標

- 一 責任準備金の積立方式及び積立率41
- 二 共済の特性ごとの契約者割戻準備金明細…〈該当なし〉
- 三 区分ごとの引当金明細41
- 四 区分ごとの法定準備金及び任意積立金明細41
- 五 事業経費の明細41

●資産運用に関する指標

- 一 主要資産の区分ごと平均残高42
- 二 主要資産の区分ごと構成及び増減42
- 三 主要資産の区分ごと運用利回り42
- 四 区分ごとの資産運用収益明細42
- 五 区分ごとの資産運用費用明細…〈該当なし〉
- 六 利息及び配当金収入等明細42
- 七 有価証券の種類別残高43

- 八 有価証券の種類別の残存期間別残高43
- 九 業種別保有株式の額…〈該当なし〉
- 十 共済契約貸付及び業種別の貸付金残高並びに当該貸付金残高の合計に対する割合…〈該当なし〉
- 十一 使途別の貸付金残高…〈該当なし〉
- 十二 担保の種類別貸付金残高…〈該当なし〉
- 十三 区分ごとの海外投資残高…〈該当なし〉
- 十四 区分ごとの海外投資の地域別構成…〈該当なし〉
- 十五 海外投資運用利回り…〈該当なし〉

●その他の指標

- 業務用固定資産残高44

4 契約年度別責任準備金残高及び予定利率…〈該当なし〉

5 組合の業務の運営に関する次に掲げる事項

- イ リスク管理の体制13
- ロ 法令遵守の体制14～17

6 組合の直近の二事業年度における財産の状況に関する次に掲げる事項

- イ 貸借対照表、損益計算書及び剰余金処分計算書又は損失金処理計算書39、40
- ロ 貸付金のうち次に掲げるものの額及びその合計額
…〈該当なし〉

(1) 破綻先債権に該当する貸付金

(2) 延滞債権に該当する貸付金

(3) 三月以上延滞債権に該当する貸付金

(4) 貸付条件緩和債権に該当する貸付金

- ハ 債権について、債務者の財政状態及び経営成績等を基礎として次に掲げるものに区分することにより得られる各々に関し貸借対照表に計上された金額…〈該当なし〉

(1) 破産更生債権及びこれらに準ずる債権

(2) 危険債権

(3) 要管理債権及び条件緩和貸付金

(4) 正常債権

- 二 共済金等の支払能力の充実の状況38

- ホ 次に掲げるものに関する取得価額又は契約価額、時価及び評価損益40

(1) 有価証券

(2) 金銭の信託…〈該当なし〉

(3) デリバティブ取引…〈該当なし〉

- ヘ 貸倒引当金の期末残高及び期中の増減額…〈該当なし〉

- ト 貸付金償却の額…〈該当なし〉

消費生活協同組合法施行規則 第211条関係

1 組合及びその子会社等の主要な事業の内容及び組織の構成

.....21～26

2 組合の子会社等に関する次に掲げる事項26、27

- イ 名称
- ロ 主たる営業所又は事務所の所在地
- ハ 資本金又は出資金
- ニ 事業の内容
- ホ 設立年月日
- ヘ 組合が有する子会社等の議決権の総株主、総社員又は総出資者の議決権に占める割合
- ト 組合の一の子会社等以外の子会社等有する当該一の子会社等の議決権の総株主、総社員又は総出資者の議決権に占める割合

FACTBOOK2018

— DENTSU KYOSAI SEIKYO —



電通共済生協

電気通信産業労働者共済生活協同組合



発行／2018 年 12 月
東京都千代田区神田淡路町 2 丁目 101 番地ワテラストワー
TEL：03-6810-6788（代表）